取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

PASSO

TABLE OF CONTENTS
目次

メーカーオプションのナビゲーションシステムを装着された方は、
別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」も併せてお読みください。

1
2
3
4
5
6

4 室内装備の使い方

5 トラブルが起きたら

6 車両仕様

さくいん

外観

ドアミラー ＊ P. 58
方向指示灯 ＊ P. 108
給油口 P. 64
ワイパー P. 125
方向指示灯 P. 108
車幅灯 P. 120
ボンネット P. 194
方向指示灯 ＊ P. 108
ドアミラー ＊ P. 58
KBPA000101
ヘッドライト（ロービーム）P. 120
ヘッドライト（ハイビーム）P. 120
フロントフォグライト ＊ P. 123

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内

ヘッドレスト P. 48
シートベルト P. 50
助手席 SRS エアバッグ P. 71
A
B
フロントシート P. 37
リヤシート P. 39
SRS サイドエアバッグ ＊ P. 71
KBPA000201

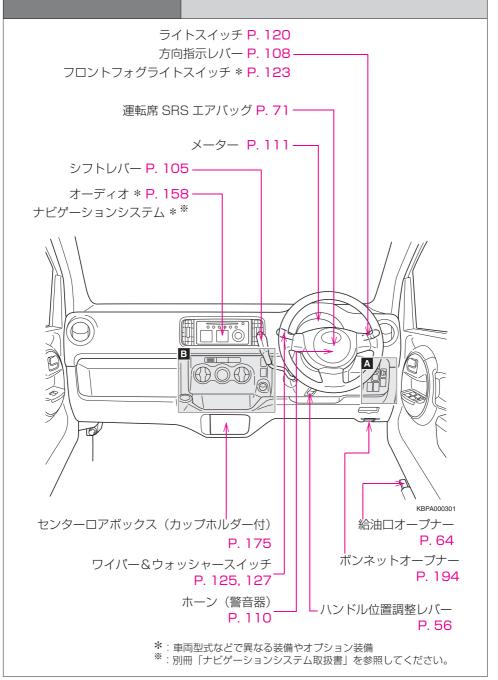
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

B

ドアロックレバー P. 30

パワーウインドウスイッチ P. 61

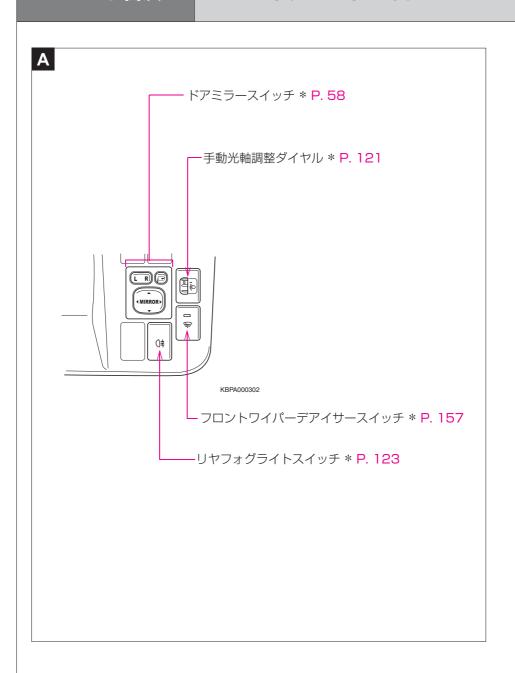
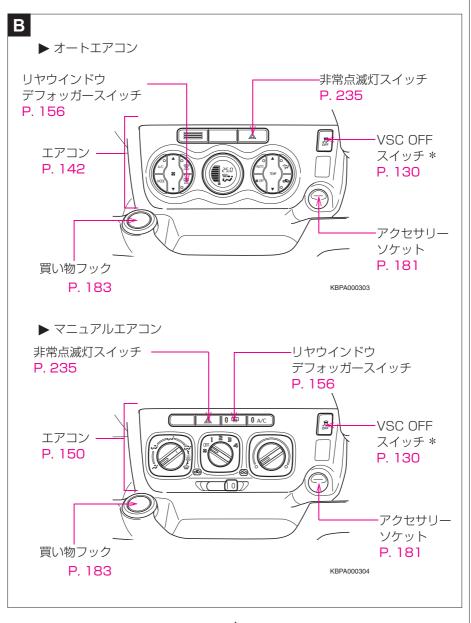
ウインドウロックスイッチ P. 61

KBPA000203

インストルメントパネル

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照してください。

インストルメントパネル

B

▶ オートエアコン

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
  - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
    異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
  - ・電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
    電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

ほかの車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまを乗せるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故により最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 80)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

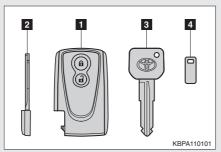
操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。

▶ キーフリーシステム装着車

1 電子カードキー

- キーフリーシステムの作動（→P. 20）
- ワイヤレス機能の作動（→P. 27）

2 メカニカルキー

3 メインキー

4 キーナンバープレート

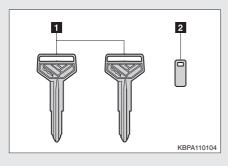
▶ ワイヤレスドアロック装着車

1 メインキー

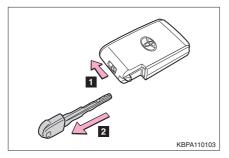
ワイヤレス機能の作動（→P. 27）

2 スペアキー

3 キーナンバープレート

▶ ワイヤレスドアロック非装着車

1 マスターキー（2 枚）

2 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ノブをスライドしてキーを取り出す

使用後は元に戻し、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 265)

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーと残りのキーから新しいキーが作製できます。(→P. 264)

■航空機に乗るときは

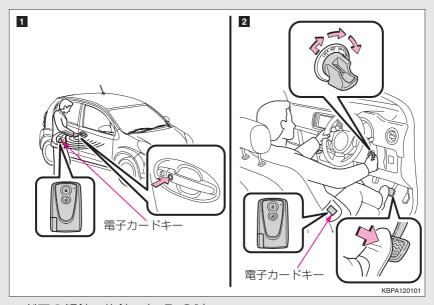
航空機に電子カードキー(キーフリーシステム装着車)、メインキー(ワイヤレスドアロック装着車)を持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

■キーの故障を防ぐために

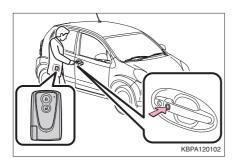
- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、濡らしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼り付けたりしないでください。

キーフリーシステム＊

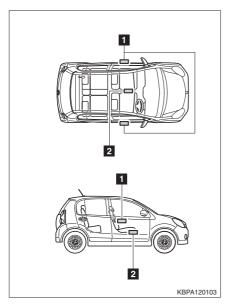
電子カードキーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。（必ず運転者が携帯してください。）

1 ドアの解錠・施錠 （→P. 21）

2 エンジンの始動 （→P. 100）

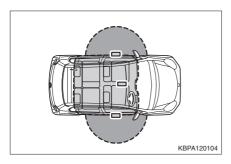
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）

スイッチを押して解錠・施錠する

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

■ 作動範囲（電子カードキーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

各ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。（電子カードキーを検知しているドアのみ作動します。）

:エンジン始動時

車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■機能が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信をさまたげ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P. 265）

●電子カードキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子カードキーが金属製のものに接したり、覆われたりしているとき

●複数の電子カードキーが近くにあるとき

●電子カードキーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき

・ほかの車の電子カードキー
・電波式ワイヤレスリモコン
・パソコン

●リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

■節電機能

電子カードキーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではキーフリーシステムを停止します。

●10 日以上キーフリーシステムを使用しなかった

●車両の外約 70cm 以内に電子カードキーを 5 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、キーフリーシステムが復帰します。

●ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する

●ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 27）

●メカニカルキー、メインキーで施錠・解錠する（→P. 265）

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は1～2年です。（電子カードキーを使用しなくても電池は消耗します。）キーフリーシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。
（→P. 225）

●電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子カードキーを置かないでください。

・ＴＶ
・パソコン
・充電中の携帯電話やコードレス電話機
・電気スタンド

■システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

■ご留意いただきたいこと

●電子カードキーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

- ・ドアの施錠・解錠時に電子カードキーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
- ・エンジン始動時に電子カードキーがインストルメントパネル上やフロア上、またはセンターロアボックス内などに置かれていた場合

●電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレス機能などで施錠をおこなうと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します。）

●車外アンテナの作動範囲内への急な接近やスイッチ操作では、解錠されない場合があります。その場合は、スイッチをもう一度押し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子カードキーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したりすることがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。（→P. 246）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	いずれかのドアが開いている状態でエンジンスイッチを“ACC”にした（“ACC”のときいずれかのドアを開いた）	エンジンスイッチを“LOCK”にした後、運転席ドアを閉めてください。

■キーフリーシステムが正常に作動しないときは

●ドアの施錠、解錠：→P. 265

●エンジン始動：→P. 265

■電池が切れたときは

→P. 225

■販売店で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。
（カスタマイズ一覧 →P. 283）

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響についての警告

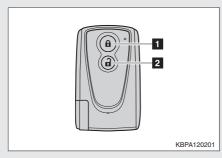
●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、車内アンテナ・車外アンテナ（→P. 22）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

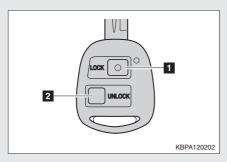
●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

ワイヤレスリモコン*

ドアを施錠・解錠できます。

▶ キーフリーシステム装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

▶ ワイヤレスドアロック装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■作動の合図

非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶ キーフリーシステム装着車

→P. 23

▶ ワイヤレスドアロック装着車

以下のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- ●近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、空港など強い電波やノイズを発生する設備、電波式のオーディオ機器など電波を発生する電子機器、大型ディスプレイがあるとき
- ●無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- ●ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- ●複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ●近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ●ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

■電池の消耗について

▶ キーフリーシステム装着車

→P. 24

▶ ワイヤレスドアロック装着車

電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(ワイヤレス機能を使用しなくても電池は消耗します。)ワイヤレス機能が作動しない場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。(→P. 226)

■解錠操作のセキュリティ機能

▶ キーフリーシステム装着車

→P. 25

▶ ワイヤレスドアロック装着車

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、自動的に施錠されます。

■電子カードキーが正常に働かないときは(キーフリーシステム装着車)

→P. 265

■電池が切れたときは(ワイヤレスドアロック装着車)

→P. 226

ドア（フロントドア、リヤドア）

キーフリーシステム＊やワイヤレス機能＊、キー、ドアロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ キーフリーシステム＊

→P. 21

■ ワイヤレス機能＊

→P. 27

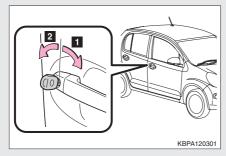
■ キー

▶ キーフリーシステム装着車

メカニカルキーやメインキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→P. 265)

▶ キーフリーシステム非装着車

1 施錠

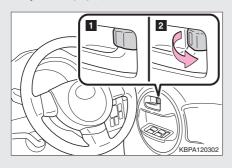
2 解錠

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、全てのドアが解錠（または施錠）されます。

■ ドアロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、全てのドアが解錠（または施錠）されます。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

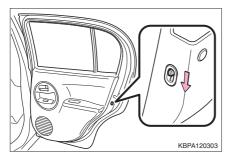
▶ キーフリーシステム装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときや車内に電子カードキーが放置されているときは施錠されません。

電子カードキーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ キーフリーシステム非装着車

キーがエンジンスイッチに差してあるときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤドアが内側から開かなくなります。

お子さまが内側からリヤドアを開けないようにできます。両側のリヤドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■**事故を防ぐために**

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●すべてのドアを施錠する

●すべてのドアを確実に閉める

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまをリヤシートに乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■**ドアを開閉するときは**

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

バックドア

キーフリーシステム＊やワイヤレス機能＊、キー、ドアロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ キーフリーシステム＊

→P. 20

■ ワイヤレス機能＊

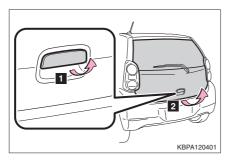
→P. 27

■ キー

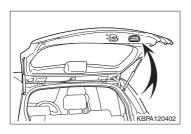
→P. 30

■ ドアロックレバー

→P. 30

バックドアの開け方

1. バックドアハンドルを引く
2. 引き上げる

知識

■バックドアを閉めるときは

バックドアハンドルを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**走行中の警告**

●走行中はバックドアを閉じてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずバックドアが閉まっていることを確認してください。

●走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■**お子さまを乗せているときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■バックドアの操作にあたって

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- ●バックドアを開ける前に、バックドアに貼りついた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが落下するおそれがあります。
- ●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- ●人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- ●強風時の開閉には十分注意してください。
  バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- ●半開状態で使用すると、バックドアが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。

- ●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- ●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルで直接バックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

警告

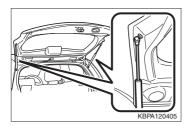
■バックドアの操作にあたって

●バックドアダンパーステーを持ってバックドアを閉めたり、ぶらさがったりしないでください。
手を挟んだり、バックドアダンパーステーが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。
バックドアの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

注意

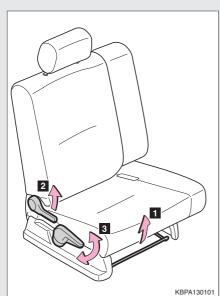
■バックドアダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのバックドアダンパーステーが取り付けられています。
バックドアダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品をつけない

●ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

フロントシート

1 前後位置調整

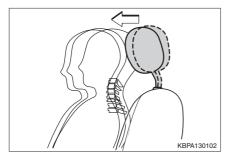
2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整*
（運転席のみ）

⚠ 注意

■前後位置を調整するときは（フロントベンチシート装着車）

必ずセンターロアボックスを収納してください。シートがセンターロアボックスに当たり損傷するおそれがあります。（→P. 175）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アクティブヘッドレスト*

追突の衝撃によって、乗員がシートバックを押すことでヘッドレストが少し前方に動き乗員のむち打ち傷害軽減に貢献します。

知識

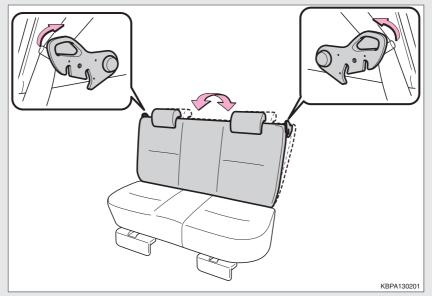
■アクティブヘッドレスト

シートバックへの衝撃が弱い場合でもアクティブヘッドレストが作動することがあります。

警告

■シート調整について

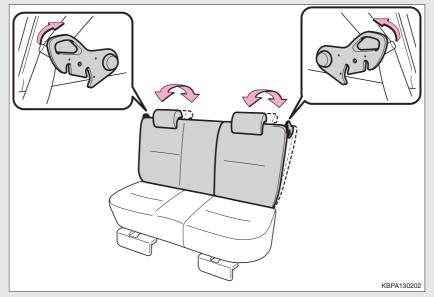
- シートが乗員や荷物に当たらないように注意してください。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートが確実に固定されていることを確認してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤシート

▶ 一体可倒シート

リクライニング調整

シートバックフックを同時に引いて調整します。

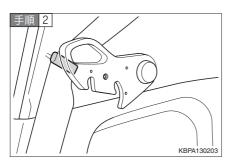
▶ 分割可倒シート

リクライニング調整

シートバックフックを引いて調整します。

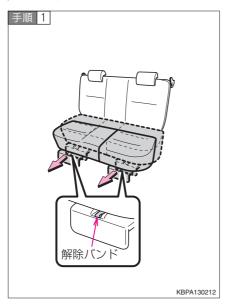
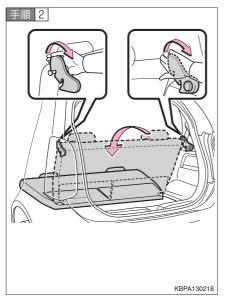
リヤシートの前倒し

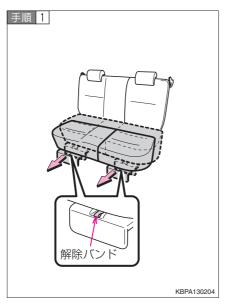
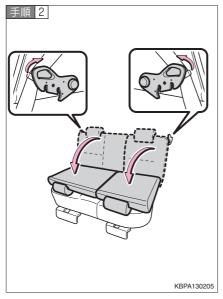
■ リヤシートを前に倒す前に

手順 1 シートクッションが当たらないように、フロントシートの前後位置、リクライニング位置を調整する。(→P. 37)

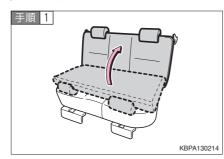
手順 2

リヤシートベルトをベルトハンガーに挟む。

■ リヤシートを前に倒すときは

▶ 一体可倒シート

解除バンドを引いて、シートクッションを前に引き出す。

車両後側からシートバックフックを同時に引いたまま、背もたれを前方に倒す。

▶ 分割可倒シート

解除バンドを引いて、シートクッションを前に引き出す。

シートバックフックを引いたまま背もたれを前方に倒す。

■ リヤシートをもとにもどすときは

▶ 一体可倒シート

背もたれを起こし、固定する。

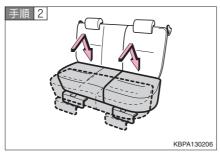
シートクッション後部を下から潜り込ませるようにしてもどす。

手順 3 リヤシートベルトをベルトハンガーからはずす。

▶ 分割可倒シート

KBPA130211

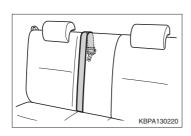
背もたれを起こし、固定する。

KBPA130206

シートクッション後部を下から潜り込ませるようにしてもどす。

手順 3 リヤシートベルトをベルトハンガーからはずす。

知識

■シートクッションをもとにもどすときは

KBPA130220

2 点式シートベルトをシートクッションの下に挟み込まないように、背もたれにかけてください。

警告

■**リヤシートを前倒しするときは**

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中に操作をしない

●平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをＰにする

●シートクッションだけを前に引き出した状態で座らない

●前倒ししたリヤシートやラゲージルームに人を乗せて走行しない

●お子さまがラゲージルームに入らないように注意する

■**リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**シートバックフックについて**

シートバックフックを操作するときは、指や手を挟まないように注意してください。

警告

■リヤシートをもとの位置にもどした後は

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- ●シートベルトがシート下に挟み込まれていないか確認する

注意

■リヤシートを操作するときは

以下のことをお守りください。
同乗者がけがをしたり、荷物をこわしたりするおそれがあります。

KBPA130207

- ●シートクッションを持ち上げたままにしないでください。
シートクッションが固定されていないため、シートクッションが突然動くおそれがあります。また、シートが破損するおそれがります。

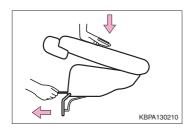
KBPA130208

- ●リヤシートベルトのバックルが、バンドで保持されていることを必ず確認してください。

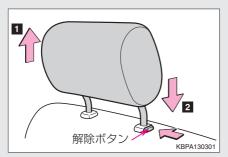
⚠ **注意**

● シートクッションの後端を上から押さえつけないでください。上から押さえつけると、シートクッションを固定することができません。

● シートクッションをもどすときは、フロアにものがないことを確認し、ものやシートベルトのバックルを挟み込まないようにしてください。挟み込むと、シートクッションが引き出せなくなるおそれがあります。

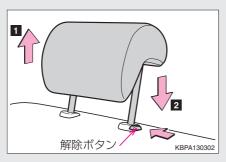
■シートクッションを引き出せなくなったときは

● 背もたれを前に倒した状態で、背もたれの上側を強く押し、解除バンドを引きながら、背もたれから手を離すと、シートクッションを引き出すことができます。それでも引き出せない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

ヘッドレスト*

▶ フロントシート*

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

▶ リヤシート*

1 上げる

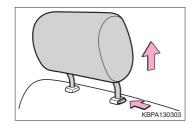
2 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

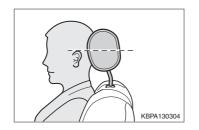
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ヘッドレストの取りはずしについて

KBPA130303

解除ボタンを押しながら取りはずします。

■フロントヘッドレストの高さについて

KBPA130304

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■リヤシートのヘッドレストの使用について

使用時は格納位置から一段上げた位置にしてください。

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

▶ 3 点式シートベルト

KBPA130401

● 肩部ベルトを肩に十分かける

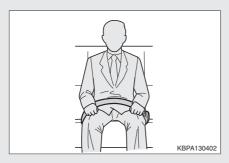
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

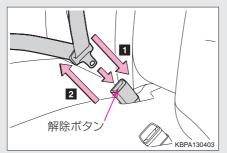
● ねじれが無いようにする

▶ 2 点式シートベルト

KBPA130402

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

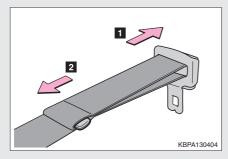
● ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。

■ シートベルトの長さ調節（2点式シートベルト）

1 伸ばす

2 縮める

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

KBPA130405

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

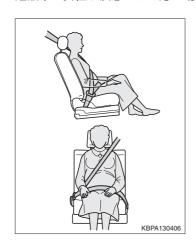
前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、ベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

KBPA130406

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 50）
妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

●シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 80)

●シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 50)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはなるべくリヤシートに乗せることをお勧めします。また、必ずチャイルドシートまたはシートベルトを着用させてください。
- 背もたれは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■お子さまをのせるときは

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

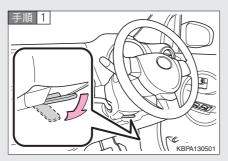
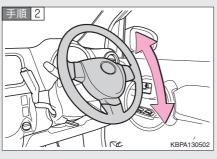
●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付きシートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

●シートベルトプリテンショナーが作動するとSRSエアバッグ/プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

ハンドルを持ち、レバーを下げる。

ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする。

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

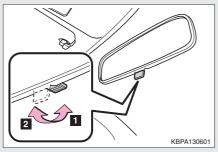
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

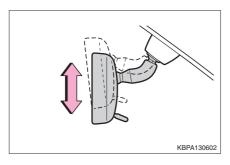
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用時

2 防眩時

上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する。

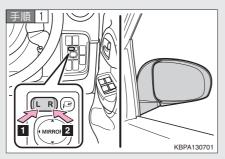
警告

■**運転中の警告**

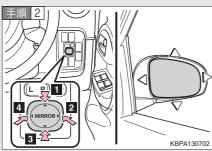
運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

▶ 電動タイプ

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

ミラーを選ぶ

1 左

2 右

スイッチを操作してミラーを上下左右方向に調整する

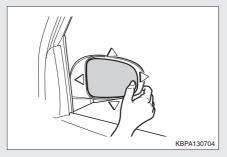
1 上

2 右

3 下

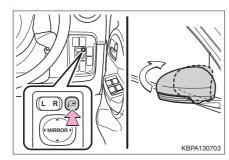
4 左

▶ マニュアルタイプ

ミラー全体を手で動かして、鏡面の角度を調整します。

手でミラーを上下左右方向に調整する

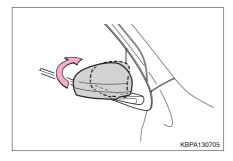
ドアミラーを格納するときは

▶ 電動タイプ

KBPA130703

ボタンを押してドアミラーを格納する。

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

▶ マニュアルタイプ

KBPA130705

ドアミラーを手で押して格納する。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■リバース連動機能*

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。

リバース連動機能を解除するには

手順 1 シフトレバーを R にする。

手順 2 ミラースイッチを L にする。（→P. 58）

手順 3 ミラースイッチの上を押す。（→P. 58）

リバース連動機能を再び設定するには

手順 1 シフトレバーを R にする。

手順 2 ミラースイッチを L にする。（→P. 58）

手順 3 ミラースイッチの下を押す。（→P. 58）

警告

■走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

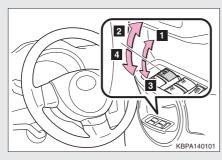
- ●ミラーの調整をしない
- ●ミラーを格納したまま走らない
  必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

パワーウインドウ

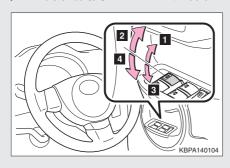
スイッチでドアガラスを開閉できます。

▶ 運転席のみ自動開閉ドアガラス装着車

KBPA140101

1 閉める
2 自動全閉（運転席のみ）※
3 開ける
4 自動全開（運転席のみ）※

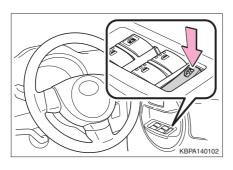
※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

▶ 全席自動開閉ドアガラス装着車

KBPA140104

1 閉める
2 自動全閉（全席）※
3 開ける
4 自動全開（全席）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ

KBPA140102

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■挟み込み防止機能（自動開閉ドアガラスのみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは（全席自動開閉ドアガラス装着車）

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

- 車を停止し、エンジンスイッチを“ON”の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。
- 上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける。

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける。

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける。

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーを再接続したときは（運転席のみ自動開閉ドアガラス装着車）

パワーウインドウを適切に作動させるために、下記の初期設定をおこなってください。

手順 1 半分までドアガラスを開ける。

手順 2 スイッチを引き上げてドアガラスを全閉し、そのままスイッチを2秒間保持する。

警告

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。とくにお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能（自動開閉ドアガラスのみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

注意

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことをお守りください。

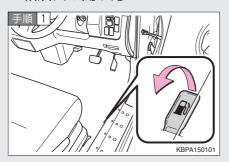
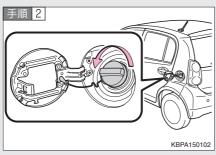
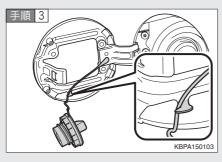
- 運転席スイッチと他のドアのスイッチを同時に逆方向に動かさない
- ドアガラスの全開、全閉後に同じ方向にスイッチを押し続けない

給油口の開け方

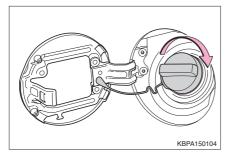
以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。

■ 給油口の開け方

レバーを引く。

キャップをゆっくりまわして開ける。

キャップをハンガーにかける。

給油口のキャップを閉めるときは

KBPA150104

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量（参考値）

▶ FF（前輪駆動車）
40L

▶ 4WD（4 輪駆動車）
38L

警告

■給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

● キャップをゆるめたときに、"シュー"という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。

● 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない

● 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

● 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

● 車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■給油時の注意

● 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。
ノズルを浮かして継ぎ足し給油をおこなうと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

● 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■キャップ交換時の警告

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

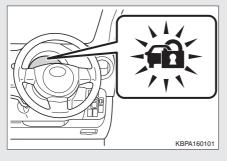
注意

■**給油するときは**

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム＊

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

- エンジンスイッチを“LOCK”にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。
- エンジンスイッチを“ACC”にすると、システムが停止し、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

●エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属性のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しない場合があります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。

KBPA170101

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 37）

2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 37）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 37）

4 SRS　エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 56）

5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上の辺りになるようにする（→ P. 48）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 50）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

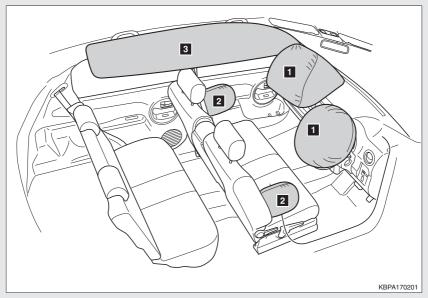
●フロントシート（シートアンダートレイ付きの助手席を除く）の下に物を置かないでください。
物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ*

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席、リヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、フロントピラー、リヤピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。（SRS カーテンシールドエアバッグ装着車）
- フロント席などだけでなく、エアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。（SRS カーテンシールドエアバッグ非装着車）
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

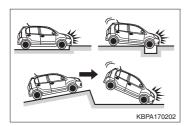
■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
  ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■ SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ＊）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

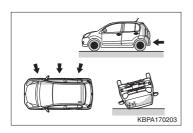
■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

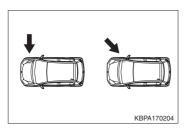
●後方からの衝突

●横転

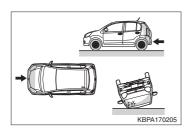
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■SRS エアバッグが作動しないとき
(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ*)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

KBPA170204

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

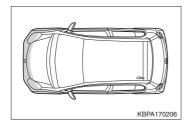
KBPA170205

- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

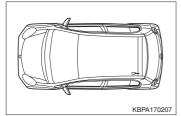
*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

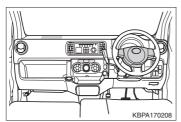
■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

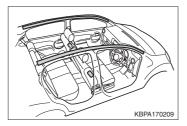
以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

KBPA170206

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

KBPA170207

●SRSサイドエアバッグ*とSRSカーテンシールドエアバッグ*はふくらまなかったが、事故でドア部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

KBPA170208

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグが内蔵されている付近のダッシュボードが傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

KBPA170209

●SRS サイドエアバッグ*が内蔵されているシート表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグ*が内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
  SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、正しい姿勢でシートに座っていない場合、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合はとくに危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまが正しい姿勢でシートに座っていない場合、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはなるべくリヤシートに乗せることをお勧めします。また、必ずチャイルドシートまたはシートベルトを着用させてください。(→P. 80)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

- お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

⚠ 警告

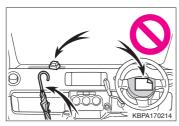
■SRS エアバッグについて

KBPA170212

●ドアやフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。(SRSサイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグ装着車)

KBPA170213

●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。(SRS サイドエアバッグ&SRSカーテンシールドエアバッグ装着車)

KBPA170214

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない。

KBPA170215

●ドア、フロントウインドウガラス、サイドガラス、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。(SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ装着車)

警告

■SRS エアバッグについて

●SRS サイドエアバッグ*がふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

●SRS エアバッグが収納されている部分に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

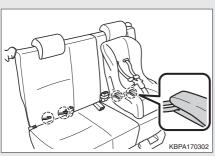
- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロントピラー、センターピラー、リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

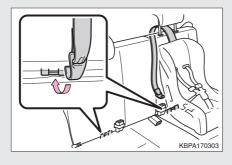
シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱説明書にしたがってください。

KBPA170301

シートベルトによる取り付け
(→ P. 81)

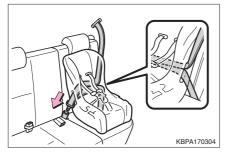
KBPA170302

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー(→ P. 82)

リヤシートの外側の座席に装備されています。

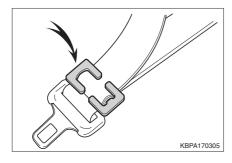
KBPA170303

トップテザーアンカー
(→ P. 82)

テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシートの外側の座席に装備されています。

シートベルトで固定する

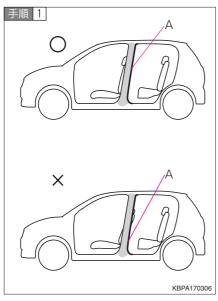
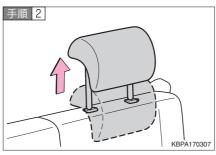
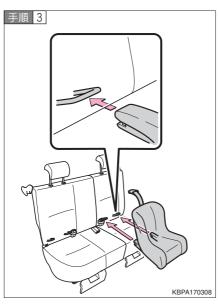
KBPA170304

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取説書にしたがい、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

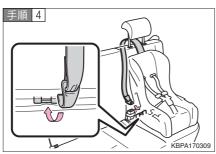
KBPA170305

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

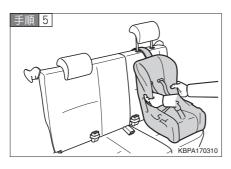
ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。
（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

フロントシートの後側がセンターピラーの後側（A 部）より前になるようにフロントシートの位置・背もたれの角度を調整する。（→P. 37）

ヘッドレストを上げる。（ヘッドレスト装着車）

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける。

固定専用バーは、シートクッションと背もたれの間にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがってください。

トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■チャイルドシートについて

- 事故や急ブレーキの際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、センターピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ装着車）
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻きついた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、きちんと固定されているか確認してください。

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。

⚠警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上に掛けると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートに取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**チャイルドシートを使用しないときは**

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→ P. 81、82）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、ラゲージルーム内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

運転するときに 2

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 100, 103）

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。（→P. 105）

手順 2 パーキングブレーキを解除する。（→P. 109）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。（→P. 105）

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。（→P. 109）

手順 3 シフトレバーを P にする。（→P. 105）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンスイッチを“LOCK”にしてエンジンを止める。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

知識

■雨の日の運転について

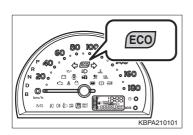
●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■環境にやさしい運転

エコドライブインジケーターが点灯すると、二酸化炭素排出量の少ない運転をしていることをお知らせます。必要以上にアクセルペダルを踏むと消灯します。(D での走行時。ただし、スポーツドライブ (S/D) スイッチ*が ON のときは除く)
エコドライブインジケーターは表示、非表示の切り替えができます。(→P. 118)

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠ 警告

■**発進するときは**

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。
排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気付いたら、ドアガラスを開け、バックドアが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●走行中に決してシフトレバーをPまたはRの位置に動かさないでください。
機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。

警告

- 走行中はシフトレバーを N にしないでください。
  N にすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はエンジンを切らないでください。
  パワーステアリングおよびブレーキ倍力装置は、エンジン回転中でないと作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
  フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。（→P. 105）
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
  運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
  やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
  電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

警告

■**すべりやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**停車するときは**

- 空ぶかしをしないでください。
  シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジンの回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
  排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあります。

警告

■駐車するときは

●車から離れるときは、お子さまを車内に残さないでください。炎天下の車内は大変高温となり、お子さまを残しておくと、熱射病や脱水症状となり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●お子さまを残しておくと、マッチ・ライター・発炎筒の火遊びによる車両火災につながるおそれがあり危険です。

●炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをセンターロアボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

警告

- エンジン回転中または停止直後はマフラーに触れないでください。
  やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
  まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■**仮眠するときは**

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■**ブレーキをかけるときは**

●万一エンジンの停止などによりブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

●万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを繰り返し踏むと、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。

●ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■**万一脱輪したときは（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

- ●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■きしみやひっかき音が聞こえたら（ブレーキパッドウェアインジケーター）

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ●ハンドルがとられる
- ●異常な振動がある
- ●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は、新しいタイヤに交換してください。（→P. 250）

注意

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスアクスル、トランスファー（4WD 車）、リヤディファレンシャル（4WD 車）などのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム装着車）

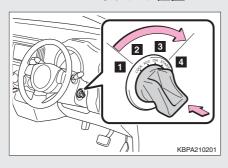
■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む。

手順 4 エンジンスイッチを押し込みながら“START”の位置にまわす。

■ エンジンスイッチの位置

1 “LOCK”(OFF)

ステアリングロックがかかります。

2 “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

すべての電装品が使用できます。

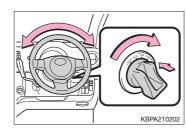
4 “START”

エンジンが始動できます。

知識

■エンジンスイッチを“ACC”から“LOCK”にまわすには

シフトレバーをPにして操作してください。
P 以外では“LOCK”の手前までしかまわすことができず、ハンドルはロックされません。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチを押し込んでまわしてください。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 68)

■電子カードキーの電池の消耗について

→P. 24

■電子カードキーの電池が切れたときは

→P. 225

■キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 23

■ご留意いただきたいこと

→P. 25

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ（キーフリーシステム非装着車）

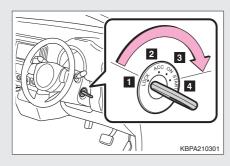
■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む。

手順 4 エンジンスイッチを“START”の位置にまわす。

■ エンジンスイッチの位置

1 “LOCK”(OFF)

- ステアリングロックがかかります。
- シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き差しすることができます。

2 “ACC”

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 “ON”

すべての電装品が使用できます。

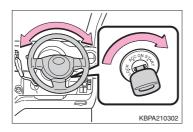
4 “START”

エンジンが始動できます。

知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

シフトレバーを P にして操作してください。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、キーをまわしてください。

■エンジンが始動しないときは

→P. 261

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが差してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、いずれかのドアを開けると警告音が鳴ります。

⚠警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

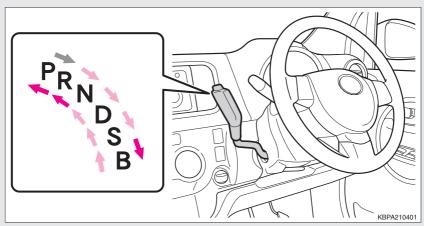
■エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

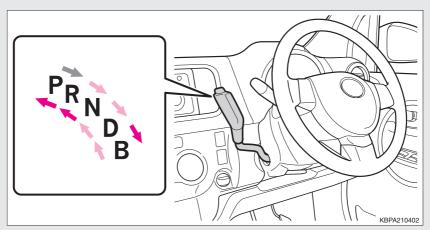
▶ スポーツドライブスイッチ非装着車

(灰色の矢印) エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

(桃色の矢印) シフトレバーボタンを押して操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

▶ スポーツドライブスイッチ装着車

(灰色の矢印) エンジンスイッチが“ON”の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

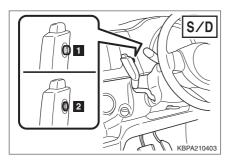
(赤色の矢印) シフトレバーボタンを押して操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
B	急な下り坂走行

※燃費向上や騒音の低減のために、通常は D を使用してください。

スポーツドライブ（S/D）スイッチ*

通常は “OFF” の状態（メーター内の表示灯が消灯）で使用してください。

1 S/D ON

2 S/D OFF

“ON” のときは、メーター内の表示灯が点灯します。

知識

■スポーツドライブ（S/D）スイッチ*が “ON” のときは

●上り坂ではエンジン回転数の変化が少なく、なめらかできびきびした走行ができます。

●下り坂では軽いエンジンブレーキが得られます。

■リバース警告ブザー

●シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

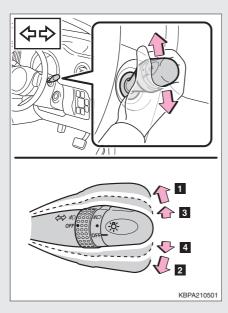
→P. 263

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーをはなすまで右側方向指示灯が点滅します。

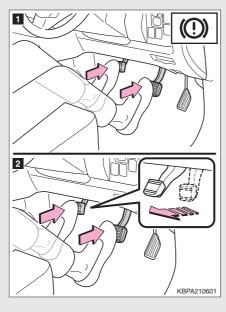
知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキをかける

右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキがかかっている状態で、再度パーキングブレーキペダルを踏み込みます。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」(→P. 136)の記載を参照してください。

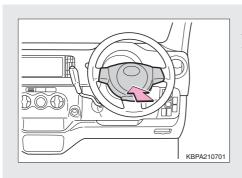
■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 246

注意

■走行前の注意

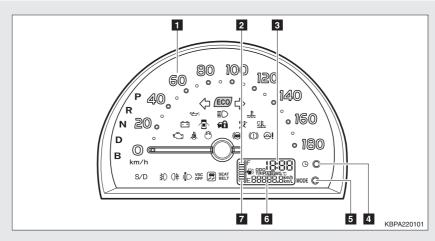
パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [horn icon] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整した後は

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→ P. 56）

計器類

車幅灯を点灯すると、メーターが点灯します。

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 燃料計

燃料残量を示します。

3 時計

時刻を表示します。

4 時刻調整ノブ

時計の表示を変更します。(→P. 112)

5 燃費表示機能付ディスプレイ表示切り替えノブ

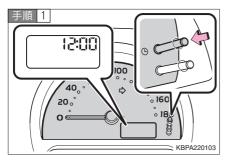
燃費表示機能付ディスプレイの表示を切り替えます。

6 燃費表示機能付ディスプレイ

→P. 117

7 燃料残量警告灯

→P. 248

時計の表示変更

時刻調整ノブを 1 秒以上押して、時計表示を点滅させる。

10 秒経過するともとの時計表示にもどります。

手順 2 時計表示が点滅中に時刻調整ノブを押して“分”を設定する。

5 秒経過すると時表示が点滅します。

手順 3 時表示が点滅中に時刻調整ノブを押して“時”を設定する。

5 秒経過するともとの時計表示にもどります。

知識

■正時合わせについて

時計表示が点滅中に時刻調整ノブを 1 秒以上押すと、正時に合わせることができます。

●0 ～ 29 分は切り下げられます。

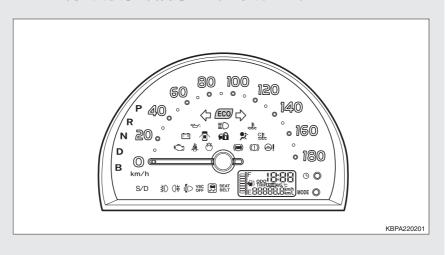
●30 ～ 59 分は切り上げられます。

●（例）1：00 ～ 1：29 の場合は、1：00 に、1：30 ～ 1：59 の場合は、2：00 になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着をおこなうと、時計は 1：00 にリセットされます。

表示灯／警告灯

メーター内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯
（→P. 108）

ヘッドライト
上向き表示灯（→P. 120）

フロントフォグライト
表示灯*（→P. 123）

リヤフォグライト
表示灯*（→P. 123）

セキュリティ表示灯*
（→P. 68）

SEAT BELT

シートベルト
インフォメーション
表示灯

※

VSC OFF 表示灯*
（→P. 131）

※

（点滅）

スリップ表示灯*
（→P. 130）

※

エコドライブインジケーター
（→P. 91）

低水温表示灯

スポーツドライブ表示灯*
（→P. 107）

シフトポジション表示灯（→P. 105）

※作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 246)

※作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■ シートベルトインフォメーション表示灯について

エンジンスイッチを“ON”にすると、約 10 秒間点滅して運転者に同乗者のシートベルト着用をうながします。

● 停車中でエンジンスイッチが“ON”のとき、いずれかのドアを開閉すると点滅します。

● シートベルトを着用していてもエンジンスイッチを“ON”にするたび、点滅します。また、点滅中にシートベルトを着用しても、約 10 秒経過するまで消灯しません。

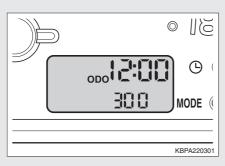
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

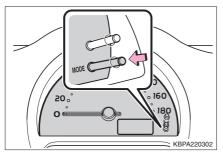
⚠ 警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

燃費表示機能付ディスプレイ

燃費表示機能付ディスプレイは、以下のような情報を表示します。

- オドメーター
- トリップメーター A、B
- 平均燃費
- 外気温*
- エコドライブインジケーターの表示／非表示

表示切り替え

表示を切り替えるには、メーター内の表示切り替えノブを押します。

- オドメーター

走行した総距離を表示します。

- トリップメーター A

リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするにはトリップメーター A 表示中にメーター内の表示切り替えノブを長押しします。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● トリップメーター B

トリップメーター A とは別に、リセットしてからの走行距離を表示します。

リセットするにはトリップメーター B 表示中にメーター内の表示切り替えノブを長押しします。

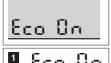
● 平均燃費

燃料を補給してからの平均燃費を表示します。

● 外気温*

外気温を表示します。

外気温：－ 30 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

● エコドライブインジケーターの表示／非表示の切り替え

エコドライブインジケーター（→P. 91）を表示するかしないかを選択できます。

1 Eco On
2 EcoOFF

メーター内の表示切り替えノブを長押しすると、表示／非表示が切り替わります。

1 表示
2 非表示

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■外気温の表示について

●外気温の測定が正しく行われないときは「−−℃」と表示されます。

以下の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、表示切替が遅くなることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行のとき

●外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入口付近など）

■バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着をおこなうと、以下のデータはリセットされます。

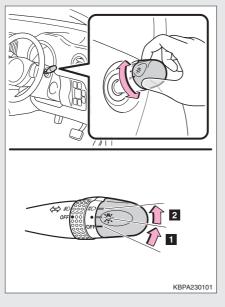
●トリップメーター A、B

●平均燃費

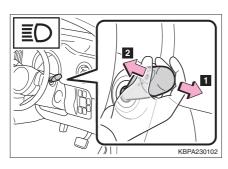
●外気温*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ライトスイッチ

ヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

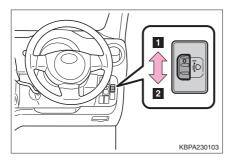
ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切り替え

レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどるまたは消灯します。

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置	
乗員	荷物	FF （前輪駆動）	4WD （4 輪駆動）
運転者	なし	0	0
運転者と 助手席乗員	なし	0	0
全乗員	なし	2	1.5
全乗員	ラゲージルーム 満載時	3.5	3
運転者	ラゲージルーム 満載時	4.5	4

知識

■ライト消し忘れ警告ブザー

▶ キーフリーシステム装着車

ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあり、エンジンスイッチが“LOCK”のとき、いずれかのドアを開けると警告音が鳴ります。

▶ キーフリーシステム非装着車

ライトスイッチが ● または ≣D の位置にあるとき、キーを抜いていずれかのドアを開けると警告音が鳴ります。

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

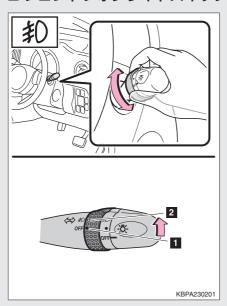
注意

■バッテリーあがりを防止するために

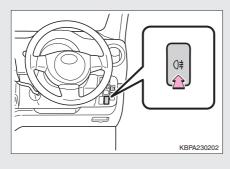
エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。

■ フロントフォグライトスイッチ

1 消灯

2 点灯

■ リヤフォグライトスイッチ

点灯／消灯

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■点灯条件

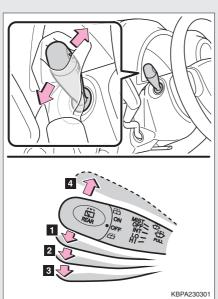
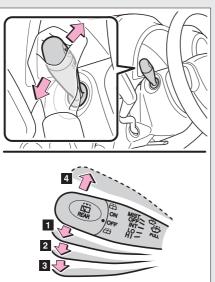
●フロントフォグライトは、車幅灯が点灯しているときに使用できます。

●リヤフォグライトは、ヘッドライトが点灯しているときのみ使用できます。

■リヤフォグライトについて

●リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

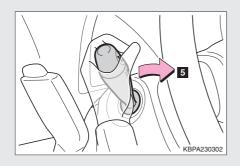
ワイパー & ウォッシャー（フロント）

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

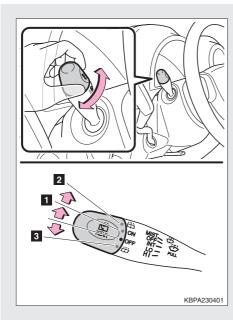
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）*

1 作動

2 ウォッシャー液を出す

（ワイパー作動中）

3 ウォッシャー液を出す

（ワイパー停止中）

知識

■作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■窓ガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつづけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）*

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）*

すべりやすい路面での発進時や加速時に駆動輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ブレーキアシスト（VSC 装着車）

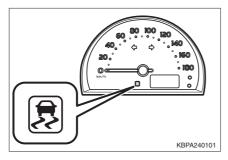
急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

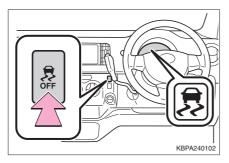
VSC、TRC が作動しているとき

KBPA240101

車両が横すべりしそうになったとき、駆動輪が空転したときは、VSC、TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

TRC や VSC を停止するには

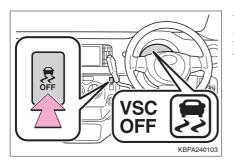
ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押して、TRC や VSC を停止することにより脱出しやすくなります。

■ TRC を停止するには

KBPA240102

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

スリップ表示灯と、VSC OFF 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

知識

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
  - ・車体やハンドルに振動を感じる
  - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
  - ・ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  - ・ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度で元の状態にもどります。

警告

■**ABS の効果を発揮できないとき**

●タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき

●雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■**ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■**スリップ表示灯が点滅したときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したときは、とくに慎重に運転してください。

■**VSC OFF 表示灯が点滅したときは**

VSC システム、TRC システムに異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。
そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 280）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。

⚠ 警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料がはいった容器
- スプレー缶

■荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。
  お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  - 運転席足元
  - 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
  - インストルメントパネル
  - ダッシュボード
  - ふたのない小物入れ / トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
  安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。

警告

- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
  急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
  乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
  お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。
  これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。
（タイヤについて：→P. 191）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ **運転するときは**

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ **駐車するときは**

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、輪止めをしてください。

知識

■ **寒冷地用ワイパーブレードについて**

● 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

● 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■ **タイヤチェーンについて**

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・ 安全に作業できる場所でおこなう
・ 前 2 輪に取り付ける
・ タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがう
・ 取り付け後 0.5 〜 1.0 km 走行したら締めなおしをおこなう

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを越える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ **タイヤチェーンの使用について**

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ **フロントウインドウガラスに付いた氷を除去するときは**

たたいて割らないでください。
ウインドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

オートエアコン*

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

フロントガラス雲り取り
エアコンの電源
風量
設定温度表示
オート設定
花粉除去
風量切り替え
送風停止
内外気切り替え
吹き出し口切り替え
吹き出し口表示
設定温度調整
KBPA310101

オート設定を使うとき

を押す。

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは TEMP の▲を、下げるときは▼を押す。

を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切り替えるには

を押す。

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切り替わります。

■ 設定温度をかえるには

温度を上げるときは　の▲を、下げるときは▼を押す。

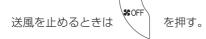
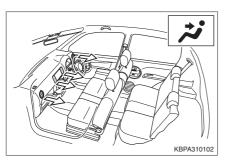
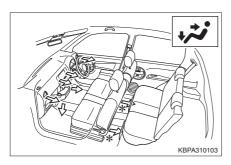
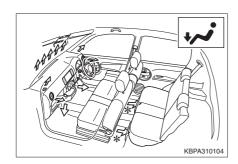
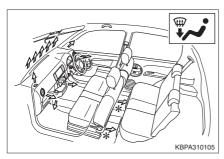
■ 風量をかえるには

の▲（増）か ▼（減）を押す。

風量は７段階に調整できます。

送風を止めるときは　を押す。

■ 吹き出し口を切り替えるには

を押す。

ボタンを押すたびに吹き出し口が切り替わります。吹き出し口表示は以下の状態を示しています。

上半身に送風

上半身と足元に送風

＊：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

＊：寒冷地仕様車のみ

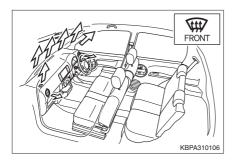
足元に送風・ガラスの曇りを取る

＊：寒冷地仕様車のみ

■外気導入・内気循環を切り替えるには

 を押す。

ボタンを押すたびに、外気導入・内気循環が切り替わります。
内気循環を選択しているときは、作業表示灯が点灯します。

フロントウインドウガラスの曇りを取るには

を押す。

外気導入に切り替わり、エアコンが自動的に ON になります。

曇りが取れたら再度

を押すと前のモードに戻ります。

花粉除去モードを使うには

 を押す。

内気循環に切り替わり、上半身に送風して花粉を除去します。通常は約３分後に

(外気温が低いときは 約 1 分後) を押す前のモードにもどります。

途中で作動を解除するときは、もう一度 を押す。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

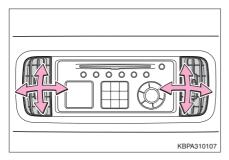
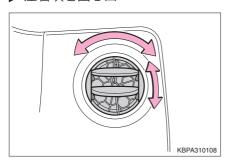
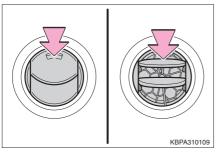
KBPA310107

風向きの調整

▶ 左右吹き出し口

KBPA310108

風向きの調整

KBPA310109

吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。制御を解除したいときは、お好みの設定で使用してください。

●

を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上向きに向けて送る

■内気循環について

●トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えスイッチを内気循環にすると効果的です。

●長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入に切り替わる場合があります。

■フロントウインドウガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切り替わる場合があります。

■外気温度が0℃近くまで下がると

を押してもエアコンが作動しない場合があります。

知識

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは以下のような制御をする場合があります。

●内気循環に切り替わらない

●エアコンの電源が自動的に入る

●上半身の送風に切り替わらない

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。そのときは、

を押してください。

花粉除去モードが OFF のときでも、フィルターを通ったきれいな風が送風されます。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より暖められて送風されます。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■温度表示について

最大冷房にすると“LO”、最大暖房にすると“HI”と表示されます。

知識

■PTC ヒーターについて（寒冷地仕様車）

エンジン始動時からエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加えて暖房を補います。

以下の条件を全て満たすと、自動的に PTC ヒーターが作動します。

●エンジン冷間時

●外気温が低いとき

●コンピューターが急速暖房を必要と判断したとき

エンジンが暖まると自動的に作動が停止します。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

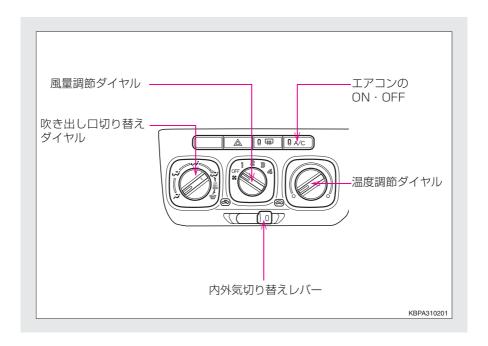
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、

を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

マニュアルエアコン*

エアコンの設定

■ 温度をかえるには

温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

A/C が押されてない場合は送風または暖房で使用できます。

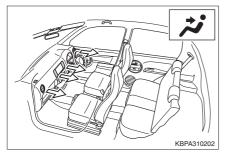
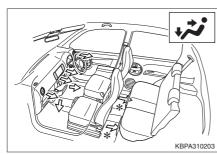
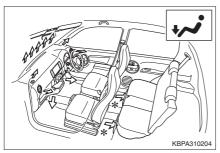
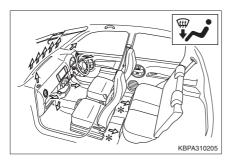
■ 風量をかえるには

風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

送風を止めるときはダイヤルを OFF の位置に合わせる

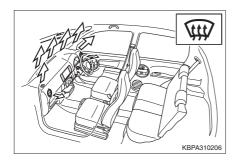
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■吹き出し口を切り替えるには

吹き出し口切り替えダイヤルを回し吹き出し口を選ぶ

上半身に送風

上半身と足元に送風

＊：寒冷地仕様車のみ

足元に送風

＊：寒冷地仕様車のみ

＊：寒冷地仕様車のみ

足元に送風・ガラスの曇りを取る

ガラスの曇りを取る

A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

内外気切り替えレバーを右（外気導入）か左（内気循環）にする

風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 中央吹き出し口

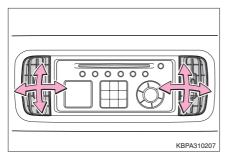
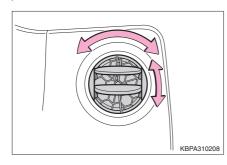
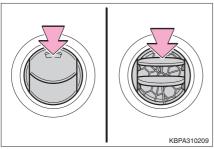
KBPA310207

風向きの調整

▶ 左右吹き出し口

KBPA310208

風向きの調整

KBPA310209

吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

● トンネル内や渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、早く冷暖房したいとき、外気温度が高いときの冷房効果を高めたいときに内外気切り替えレバーを内気循環にすると効果的です。

● 長時間、内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃近くまで下がると

A/C を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ USE WITH マークについて

● このマークはガラスが曇ったときに使用する 、 の位置で、“外気導入”を使用していただくためのものです。“内気循環”にすると曇りが取れにくくなる場合があります。

● このマークの位置でも吹き出し口切り替えダイヤルはとまりますが、この位置での使用はおすすめできません。ダイヤルは各吹き出し口の絵表示の位置に合わせて使用してください。

■エアコンの臭いについて

● エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

● エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

知識

■PTC ヒーターについて（寒冷地仕様車）

エンジン始動時からエンジンが暖まるまで、通常のヒーターに加えて暖房を補います。

以下の条件を全て満たすと、自動的に PTC ヒーターが作動します。

- エンジン冷間時
- 外気温が低いとき
- 温度調整ダイアルを右（暖）へいっぱいにまわしたとき

エンジンが暖まると自動的に作動が停止します。

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

注意

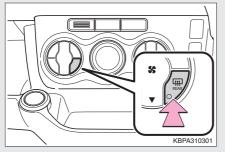
■バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

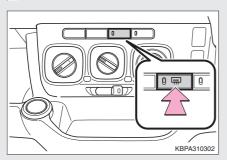
リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

▶ オートエアコン装着車

KBPA310301

ON ／ OFF

約 15 分後、自動的に OFF になります。

▶ マニュアルエアコン装着車

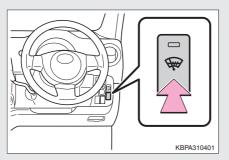
KBPA310302

ON ／ OFF

⚠ 注意

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

エンジンが停止しているときに長時間使用しないでください。

フロントワイパーデアイサー*

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

ON ／ OFF

約 15 分後、自動的に OFF になります。

警告

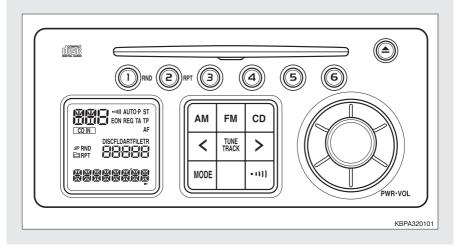
■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オーディオの種類（ナビゲーションシステム非装着車）

メーカーオプションのナビゲーションシステム装着車にお乗りの方は、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

CD プレーヤー・AM/FM ラジオ*

タイトル	参照ページ
ラジオの使い方	P. 160
CD プレーヤーの使い方	P. 162
快適に聞くために	P. 167

知識

■携帯電話の使用

オーディオを聞いているときに、車内または車の近くで携帯電話を使用した場合、オーディオのスピーカーから雑音が聞こえることがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

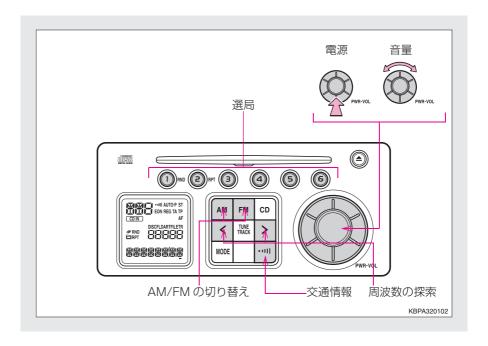
注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中にオーディオを長時間使用しないでください。

■オーディオの取り扱いについて

オーディオに飲み物などをこぼさないように注意してください。

ラジオの使い方

放送局を記憶させる

■ 手動設定

手順 1 TUNE TRACK の < （低い周波数）または > （高い周波数）を押して、お好みの放送局を探す

手順 2 記憶させたいスイッチ ① ～ ⑥ を“ピッ”と音が鳴るまで押す

■ 自動設定

FM または AM を“ピッ”と音が鳴るまで押す

受信感度の良い順に 6 局まで記憶されます。記憶が終了すると「ピッピッ」と音が鳴ります。

交通情報を受信する

[·ııll] を押す

もう一度押すと解除されます。

知識

■ [·ııll] について

●新車時は、1620kHz にセットしてあります。

●AM ラジオモードのとき [·ııll] を“ピッ”と音が鳴るまで押し続けると、その周波数を [·ııll] に記憶させることができます。ただし、バッテリーとの接続が断たれたときは、1620kHz に戻ります。

● [·ııll] を 押して、ラジオを受信しているときは、[TUNE TRACK] の [<] または [>] · (1) ～ (6) を操作したり、放送局の自動設定をしても、周波数は切り替わりません。

■バッテリーとの接続が断たれたときは

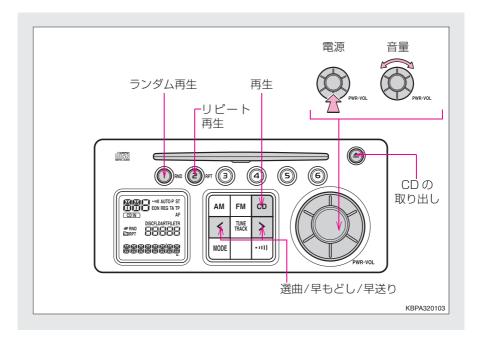
(1) ～ (6) に設定されていた放送局が消去されます。

■受信感度について

●アンテナの位置がそのときどきでかわるため、電波の強さがかわったり、障害物や電車、信号機などの影響により良好な受信状態を保つことが難しい場合もあります。

●放送局の自動設定をしても、自動選局や自動記憶ができないことがあります。

●ラジオ用アンテナはルーフ後方にあります。

CD プレーヤーの使い方

CD を挿入する

CD を 1 枚、挿入する

CD を取り出す

⏏ を押して CD を取り出す

曲を選ぶ

TUNE TRACK の ＜ （前曲）または ＞ （次曲）を押して聞きたい曲の番号を表示させる

早もどし、早送りする

早もどしするときは TUNE TRACK の ＜ を、早送りするときは ＞ を押し続ける

リピート（RPT）再生する

②RPT を押す

ディスプレイ部に “RPT” が表示され、リピート再生されます。

ランダム（RND）再生する

①RND を押す

ディスプレイ部に “RND” が表示され、無作為な順序で曲が再生されます。

知識

■リピート再生、ランダム再生の解除

もう一度 1 RND または 2 RPT を押します。

■エラー表示

表示	エラーの内容
ERROR1	ディスクが汚れている、裏表逆などで読み取りができない
ERROR3 ERROR4	プレイヤー内部に異常がある
WAIT	プレイヤーの温度が高くなり、作動しない

■再生可能な CD

以下のマークのついたディスクが再生できます。
記録状態やディスクの特性、キズ、汚れ、劣化により再生できないことがあります。

コピープロテクト機能付 CD などは使用できません。

■CD をプレーヤー内部に、またはプレーヤーから飛び出した状態のままで長時間放置すると

CD が傷付き使用できなくなるおそれがあります。

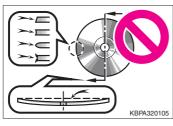
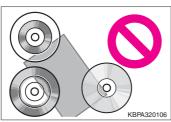
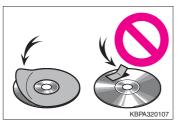
■レンズクリーナー

レンズクリーナーを使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障するおそれがあります。

注意

■使用できない CD、アダプター

以下のようなCD、8cm CD アダプター、Dual Disc を使用しないでください。使用すると、プレーヤーが故障したり、CD の出し入れができなくなるおそれがあります。

●直径 12cm の円形以外の CD

●低品質または変形している CD

●記録部分が透明または半透明の CD

●セロハンテープ、シール、CD-R 用ラベルなどを貼った CD や、はがしたあとのある CD

注意

■**CD プレーヤーの取り扱いについて**

以下のことをお守りいただかないと、CD が聞けなくなったり、CD プレーヤーが正常に働かなくなるおそれがあります。

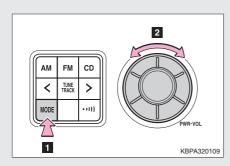
●CD 挿入口に CD 以外のものをいれない

●CD プレーヤーにオイルを塗ったりしない

●CD は直射日光を避けて保管する

●CD プレーヤーを分解しない

●一度に２枚以上の CD を挿入しない

快適に聞くために

1 MODE を押して音質・バランスモードを変更する

2 音質、バランスを変更するには音量調節つまみをまわす

設定を変更するには

■ 音質・バランスモードの切り替え

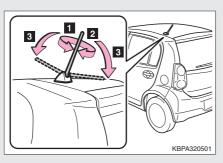
MODE を押すごとに次のように切り替わります。

FAD → BAS → TRE → BAL

音質・バランスモード	音質 / バランス
FAD	前後音量バランス
BAS	低音を強調した音質
TRE	高音を強調した音質
BAL	左右音量バランス

■ 前後・左右音量バランス、音質の調整

MODE を押して音質・バランスモードに入り、音量調整つまみをまわします。

音質モード	レベル	左にまわす	右にまわす
FAD	R7 ～ F7	後側大	前側大
BAS	－5 ～ 5	低音弱	低音強
TRE	－5 ～ 5	高音弱	高音強
BAL	L7 ～ R7	左側大	右側大

アンテナ

1 取りはずす

2 取り付ける

3 格納する

ラジオ受信時は、節度感あるところまで立ててください。

注意

■**自動洗車機にかけるときは**

アンテナを損傷するおそれがあるため、アンテナを取りはずしてください。

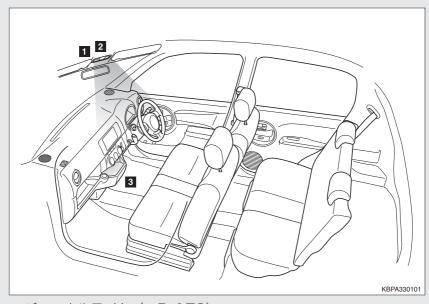
■**アンテナの損傷を防ぐために**

以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■**洗車機などアンテナを取りはずしたときは**

アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもとどおり取り付けてください。

室内灯一覧

1 パーソナルライト（→P. 170）

2 ルームライト（→P. 170）

3 マルチトレイライト

車幅灯を点灯すると、マルチトレイライトが点灯します。

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

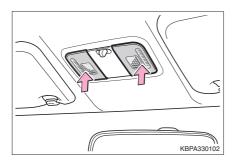
ルームライト（スイッチがドアポジションのとき）は、半ドア状態で点灯したままの場合、約 10 分後に自動消灯します。

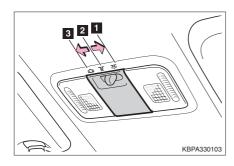
■イルミネーテッドエントリーシステム

ルームライト（スイッチがドアポジションのとき）は、ドア（バックドアを含む）の施錠・解錠・開閉、エンジンスイッチの位置と連動して、自動的に点灯・消灯します。

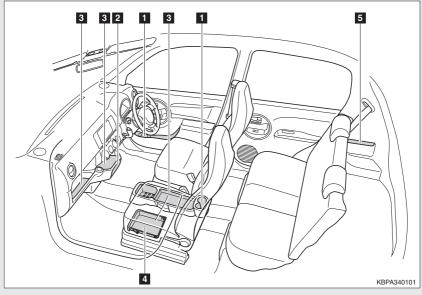
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧 →P. 283）

パーソナルライト

点灯 / 消灯

ルームライト

1 ON（点灯）
2 OFF
3 ドアポジション（ドア連動）

収納装備一覧

▶ フロントセパレートシート装着車

1 ボトルホルダー

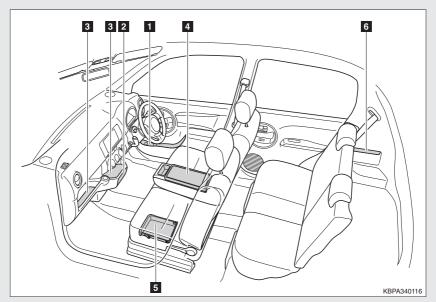
2 センターロアボックス（カップホルダー付）

3 オープントレイ

4 助手席シートアンダートレイ*

5 デッキサイドポケット

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ フロントベンチシート装着車

1 ボトルホルダー
2 センターロアボックス（カップホルダー付）
3 オープントレイ
4 アームレストポケット
5 助手席シートアンダートレイ*
6 デッキサイドポケット

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

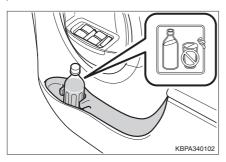
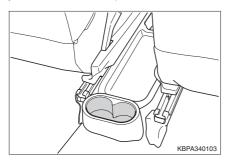
- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

ボトルホルダー

▶ フロントドアポケット

KBPA340102

▶ フロアトレイ（フロントセパレートシート装着車）

KBPA340103

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

⚠ 警告

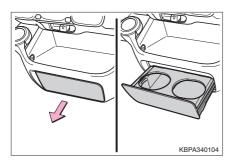
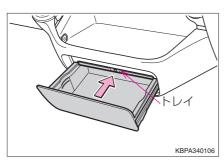
■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

センターロアボックス（カップホルダー付）

KBPA340104

フタを手前に引き出す。

KBPA340106

小物入れとして使用するときは、トレイを押し込む。

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーとして使用するときは、カップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

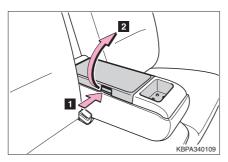
センターロアボックスは必ず収納してください。
急ブレーキ時などに、開いたセンターロアボックスに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

注意

■破損から守るために

●センターロアボックスに手をついたり、足で踏まないでください。

●フロントベンチシート装着車はシートの前後位置を調整するとき、必ずセンターロアボックスを収納してください。シートがセンターロアボックスに当たり損傷するおそれがあります。（→P. 37）

アームレストポケット*

1 ボタンを押してロックを解除する。

2 フタを持ち上げる。

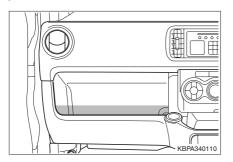
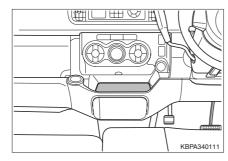
知識

■アームレストポケットについて

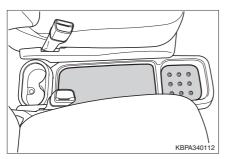
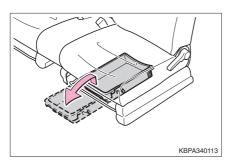
アームレストポケットにものを入れているときに、シートのリクライニング調整や前後調整を行うと、アームレストも同時に動きます。そのとき、中に入れているものが落ちることがありますので、注意してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

オープントレイ

▶ ワイドフリーラック

▶ マルチトレイ

▶ フロアトレイ（フロントセパレートシート装着車）

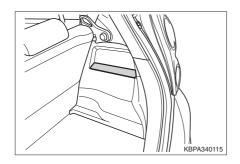
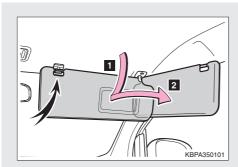
助手席シートアンダートレイ*

KBPA340113

トレイを上に持ち上げ、前に引き出す。

デッキサイドポケット

KBPA340115

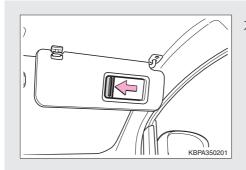
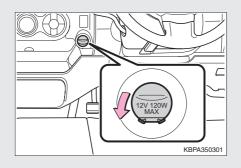
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー

カバーをスライドして開ける

アクセサリーソケット

12V 10A（120W）未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A（120W）を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときにアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アームレスト*

KBPA350401

アームレストを手前に倒して使用します。

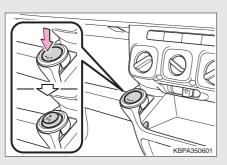
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

買い物フック

買い物袋などを吊り下げておくときなどに、お使いください。

使用するときは、買い物フックを押して回転させる。

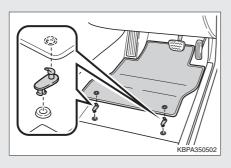
もとに戻すときは、反対側に回転させて買い物フックを格納してください。

⚠ 注意

■使用するときは

● とくに重たいものや大きなものをフックにかけないでください。
（最大荷重約 3Kg）
フックが折れたり、走行中にはずれるおそれがあります。

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

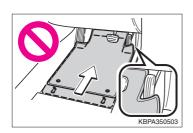
固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

⚠ 警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

お手入れのしかた 4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

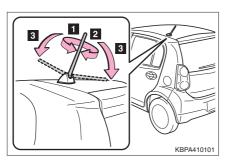
お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう。

  ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

アンテナは取りはずしたり格納することができます。

1 取りはずす
2 取り付ける
3 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。

知識

■自動洗車機を使うときは

- ドアミラーを格納し、アンテナを取りはずした状態にして、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもとどおりに取り付けて、ドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 自動洗車機に入れる前に、車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。

■アルミホイール*

- 中性洗剤を使用し、早めによごれを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。
- 夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤を使用しないでください。
- 洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパー

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などに触れないでください。やけどをするおそれがあります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■アンテナの損傷を防ぐために

以下のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき

■アンテナの取りはずしについて

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機などアンテナを取りはずしたときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずアンテナをもとどおりに取り付けてください。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

知識

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→P. 50)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
  電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→P. 71)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは(特にインストルメントパネル)

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

⚠ 注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとにおこなってください。

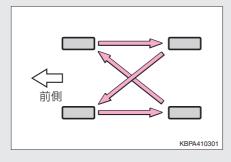
■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧

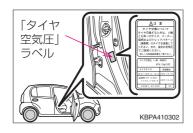
空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

タイヤサイズ	空気圧※ [kPa (kg/cm^2)]
	前後輪
155/80R13 79S	240 (2.4)
165/70R14 81S	220 (2.2)

応急用タイヤ：420 kPa (4.2 kg/cm^2)

※タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、ベルテッドバイアスタイヤ、バイアスタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態を引き起こし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

注意

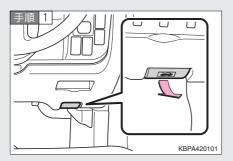
■走行中に空気漏れが起こったら

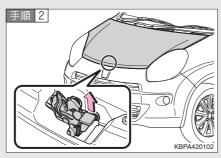
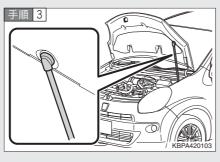
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下するおそれがあります。
また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く。

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける。

ボンネットステーをステー穴に差し込む。

知識

■バッテリー端子をはずすときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**ボンネットステーをステー穴に差し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく差し込まれているか確認してください。

注意

■**ボンネットの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

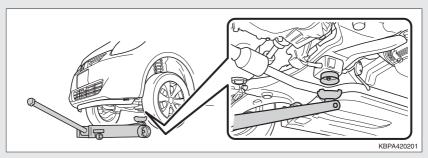
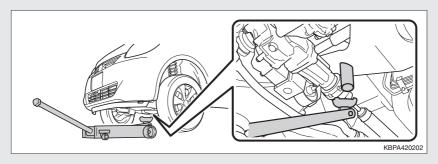
■**ボンネットを閉めるときは**

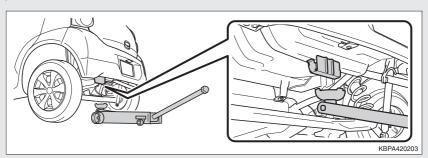
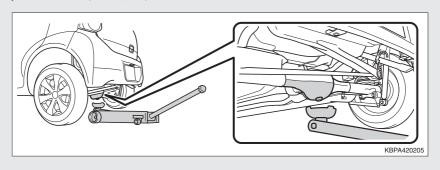
ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。ボンネットステーが差し込まれた状態で閉めると、ボンネットが損傷するおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

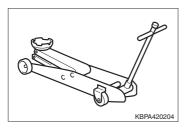
■ フロント側

▶ FF 車（前輪駆動）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

■ リヤ側

▶ FF 車（前輪駆動）

▶ 4WD 車（4 輪駆動）

警告

■**車両を持ち上げるときには**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

KBPA420204

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げる

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分に確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりした傾きのない平坦な床面で使用する

●車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをＰにする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ち上げない

●車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下に物を置かない

電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確かめてください。（→P. 281）

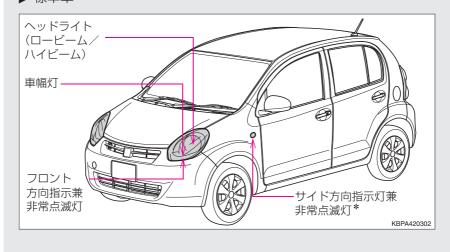
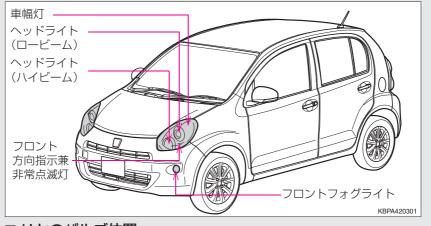
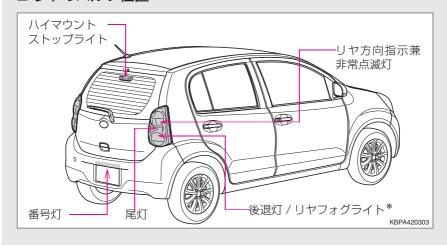
■ フロントのバルブ位置

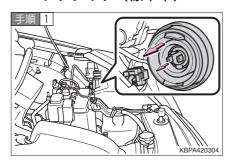
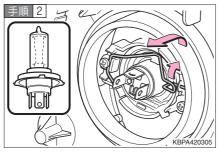
▶ 標準車

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ +Hana 仕様車

■ リヤのバルブ位置

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ヘッドライト（標準車）

コネクターとゴムカバーを取りはずす。

止め金をはずし、電球を取りはずす。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ヘッドライト（+Hana 仕様車のハロゲンヘッドライトのロービーム）

手順 1

KBPA420309

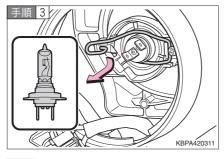
カバーを左側いっぱいに回して取りはずす。

手順 2

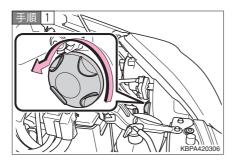
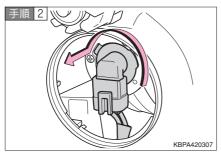
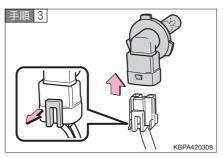
KBPA420310

コネクターを取りはずす。

手順 3

KBPA420311

止め金をはずし、電球を取りはずす。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ ヘッドライト（+Hana 仕様車のハイビーム）

カバーを左側いっぱいに回して取りはずす。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

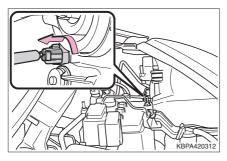
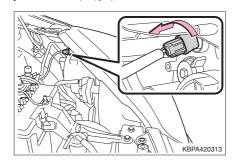
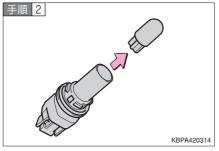
手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ 車幅灯

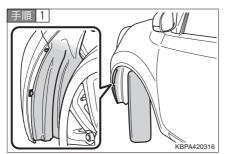
手順 1 ソケットを取りはずす。

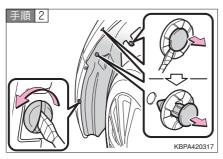
▶ 標準車

▶ +Hana 仕様車

手順 2

電球を取りはずす。

手順 3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ フロント方向指示兼非常点滅灯

交換するライトの反対側へハンドルを回し、タイヤの向きをかえる。

右側を交換するときは左へ、左側を交換するときは右へハンドルを回します。

クリップをはずす。

手順 3 ソケットを取りはずす。

▶ 標準車

▶ +Hana 仕様車

KBPA420318

手順 4 電球を取りはずす。

KBPA420319

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

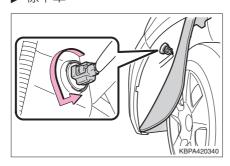
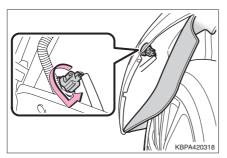
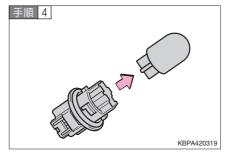
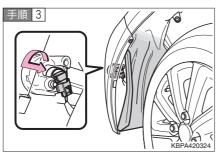
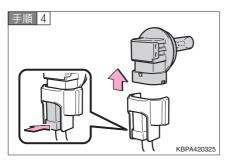
■ フロントフォグライト＊

交換するライトの反対側へハンドルを回し、タイヤの向きをかえる。

右側を交換するときは左へ、左側を交換するときは右へハンドルを回します。

クリップをはずす。

ソケットを取りはずす。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球を取りはずす。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

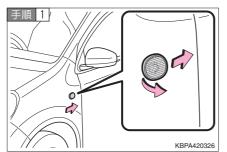
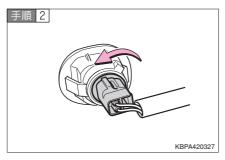
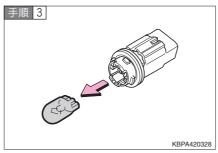
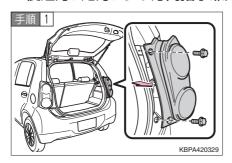
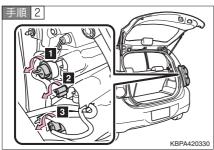
■ サイド方向指示兼非常点滅灯＊

ライト本体を取りはずす。

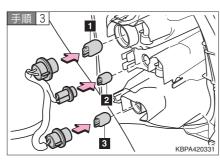
ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ 後退灯、尾灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯、リヤフォグライト*

バックドアを開け、ライト本体を取りはずす。

ソケットを取りはずす。

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 尾灯

3 後退灯 / リヤフォグライト*

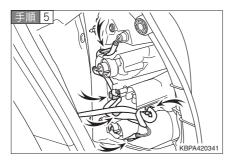
電球を取りはずす。

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

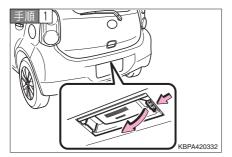
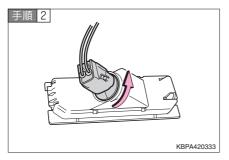
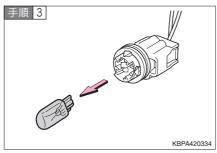
2 尾灯

3 後退灯 / リヤフォグライト*

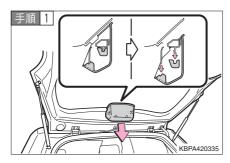
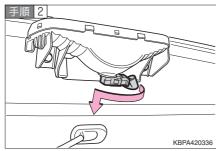
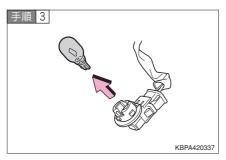
*: 車両型式などで異なる装備やオプション装備

手順 4 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

ランプ本体を取り付けるときは、配線がランプ本体に確実に取り付けられていることを確認する。

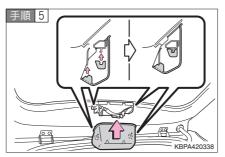
配線を取り付けるときは、配線のテーピング中央部をクランプに取り付けてください。

■ 番号灯

ライト本体を取りはずす。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ ハイマウントストップライト

バックドアを開け、カバーを車両下側に引いて取りはずす。

ソケットを取りはずす。

電球を取りはずす。

手順 4 電球とソケットを取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

手順 5

ツメの位置を確認して、カバーを取り付ける。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

● ヘッドライトロービーム（ディスチャージバルブ*）

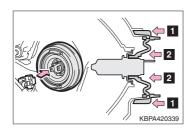
● サイド方向指示灯兼非常点滅灯
（サイド方向指示灯付ドアミラー仕様車）

● 制動灯

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■標準車のゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

1 ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- ●レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ●ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常に戻ると再点灯します。

■電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配なかたは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**電球を交換するときは**

●ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■**ディスチャージヘッドライトについて**

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電により、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■**お車の故障や火災を防ぐために**

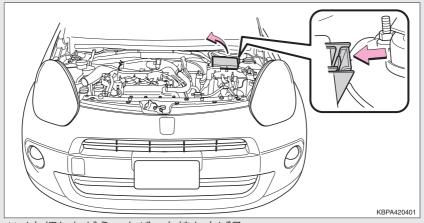
電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

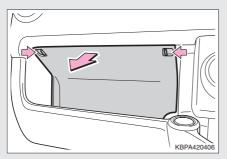
ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

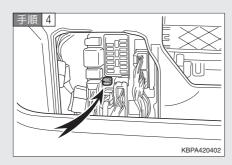
手順 1 エンジンスイッチを“LOCK”にする。

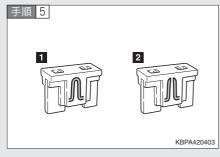
手順 2 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 助手席足元

左右のつまみを中央に押し、カバーを手前に引いて取りはずす。

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 220)で確認する。

手順 4

ヒューズはずしでヒューズを引き抜く。

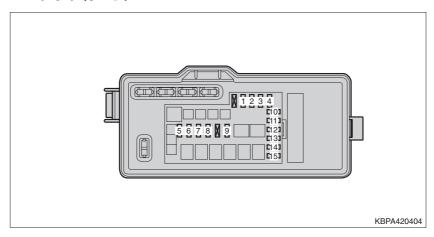
手順 5

ヒューズが切れていないか点検する。

1 正常

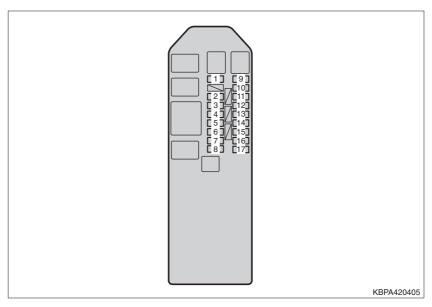
2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ECU-B	10A	オートマチックトランスミッションシステム
2	MGC	10A	エアコン
3	FR DEFOG	20A	フロントウインドデアイサー
4	ABS2	20A	ABS、VSC
5	H-LP HI RH	10A	ヘッドライト（右）ハイビーム
6	H-LP HI LH	10A	ヘッドライト（左）ハイビーム
7	H-LP RH /H-LP LO RH	10A	ヘッドライト（右）ロービーム / ハイビーム（ハロゲン）
	H-LP LO RH	15A	ヘッドライト（右）ロービーム（HID）
8	H-LP LH /H-LP LO LH	10A	ヘッドライト（左）ロービーム / ハイビーム（ハロゲン）
	H-LP LO LH	15A	ヘッドライト（左）ロービーム（HID）
9	ST2	7.5A	スターター
10	STOP	7.5A	制動灯、ABS、VSC、EFI コンピューター
11	RR FOG	7.5A	リヤフォグライト

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
12	DOME	7.5A	室内灯
13	EFI	15A	EFI コンピューター
14	ST1	30A	スターター
15	BACK UP	15A	オーディオ、キーフリーシステム、メーター

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	ACC	7.5A	オーディオ、電動格納式ドアミラー、キーフリーシステム
2	ECU IG1	7.5A	エアバッグ、ABS、VSC、電動パワーステアリング、オートレベリングシステム
3	HORN/HAZ	10A	ホーン、非常点滅灯、キーフリーシステム
4	AM2	20A	—
5	D/L	15A	キーレスエントリー、キーフリーシステム
6	AM1	15A	—
7	TAIL	10A	尾灯、車幅灯、番号灯
8	ETCS	10A	EFI コンピューター
9	FR WIPER	20A	フロントワイパー、フロントウォッシャー

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
10	RR WIPER	15A	リヤワイパー、リヤウォッシャー
11	FOG RH	7.5A	フロントフォグライト（右）
12	DEFOG	20A	フロントウインドデフォッガー
13	FOG LH	7.5A	フロントフォグライト（左）
14	SOCKET	15A	アクセサリーソケット
15	E/G	10A	点火系、EFI コンピューター
16	ECU IG2	7.5A	EFI コンピューター、オートマチックトランスミッションシステム
17	IG1/BACK	7.5A	エアコン、ヒーターコントロール、後退灯

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 200）

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池
  - ・CR1632（キーフリーシステム装着車）
  - ・CR1616（ワイヤレスドアロック装着車）

■ 電池交換のしかた（キーフリーシステム装着車）

メカニカルキーを抜く。

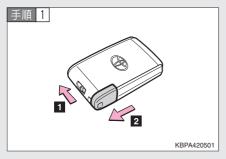
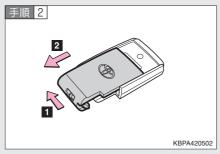
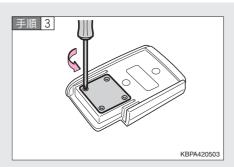
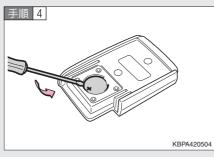
カバーをはずす。

手順 3

KBPA420503

フタをはずす。

手順 4

KBPA420504

消耗した電池を取り出す。

新しい電池は＋極を上にして取り付けます。

手順 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

■ 電池交換のしかた（ワイヤレスドアロック装着車）

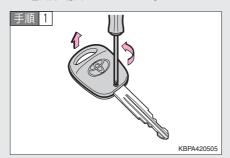
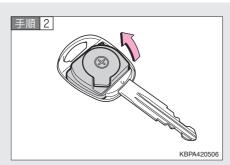
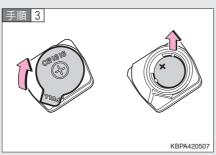
手順 1

KBPA420505

カバーをはずす。

手順 2

モジュールを取り出す。

手順 3

モジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

手順 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- ●キーフリーシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- ●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632（キーフリーシステム装着車）、CR1616（ワイヤレスドアロック装着車）の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■交換後、正常に機能させるために

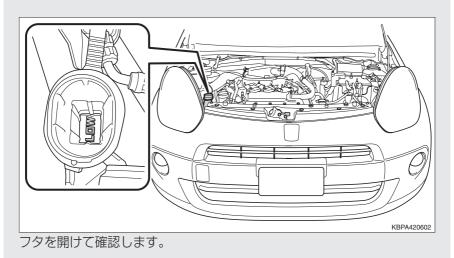
以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ウォッシャー液の補給

「LOW」が見えているときは、ウォッシャー液が不足しているので補給してください。

フタを開けて確認します。

知識

■リヤワイパーのウォッシャー液の補給について

リヤワイパー用ウォッシャータンクはフロントワイパー用と兼用です。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ **ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみがつくおそれがあります。

■ **ウォッシャー液の薄めかた**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

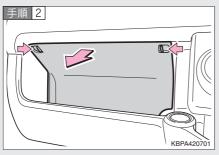
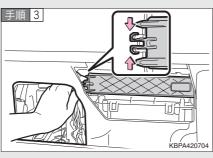
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

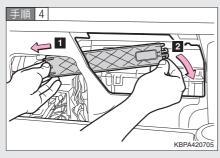
■ 交換のしかた

手順 1 エンジンスイッチを“LOCK”にする。

手順 2

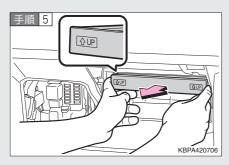
左右のつまみを中央に押し、カバーを手前に引いて取りはずす。

手順 3

図の位置から左手を入れて、フィルターカバー左側のツメをつまむ。

手順 4

フィルターカバーを取りはずす。

1 左側のツメをつまみながら、フィルターカバーを左側へスライドさせて取りはずす。

2 右側から抜き取る。

手順 5

フィルターの両端を人差し指でつかんで、フィルターを取り外し、新しいフィルターと交換する。

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

手順 6 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける。

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは以下の時期を目安に交換してください。

交換：20,000km [10,000km ※] ごと

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

トラブルが起きたら

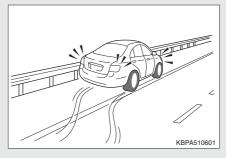
5

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

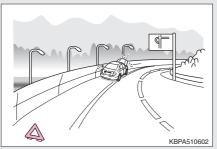
故障したときは

故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

KBPA510601

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

(→P. 235)

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

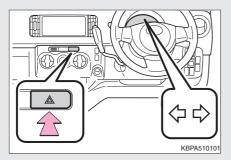
KBPA510602

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

KBPA510603

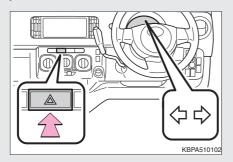
緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 236)

非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。

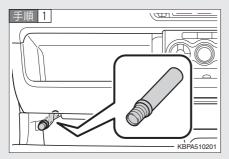
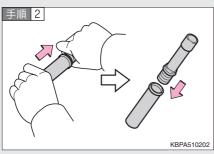
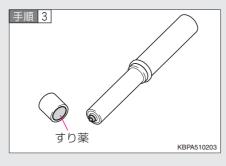
▶ オートエアコン装着車

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

▶ マニュアルエアコン装着車

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約５分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す。

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。

先端のふたを取りはずし、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■発炎筒が使用できない場所

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

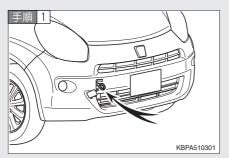
けん引について

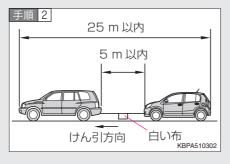
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引の前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

- エンジンはかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：

0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

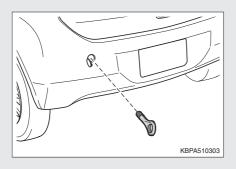
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを “ACC” または “ON” にしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

■ けん引するときは

一般路上で故障した他車をやむを得ずロープによりけん引するためのものです。自車より重い車のけん引はできません。

けん引フックの取り付け方

手順 1 マイナスドライバーと当て布を使ってふたをはずす。

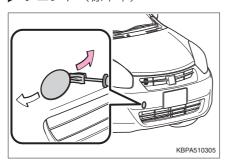
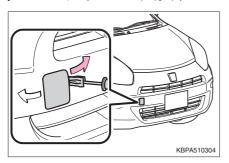
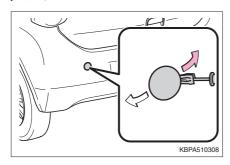
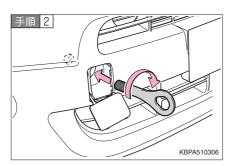
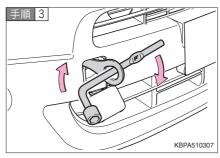
▶ フロント（標準車）

KBPA510305

▶ フロント（+Hana 仕様車）

KBPA510304

▶ リヤ

KBPA510308

けん引フックを穴に差しこみ軽く締める。

ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける。

知識

■けん引フックの収納位置

→P. 250

警告

■**けん引フックを車両に取り付けるときは**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にはずれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■**車両を運搬するときは**

必ず 4 輪接地または、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。
また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず 4 輪を持ち上げて運搬してください。

■**けん引中の運転について**

●けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。
けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●エンジンスイッチを"LOCK"にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。
エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは以下のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない
・速度 30 km/h 以下、距離 50 km 以内でけん引する
・前進方向でけん引する
・サスペンション部などにロープをかけない

●自車より重い車をけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

エンジンが止まってしまったときおよび SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限におさえます。

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順にしたがってください。

手順 1 エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にする

手順 2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

燃料供給の停止を解除するときは、燃料もれがないことを十分確認してください。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動してることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理をおこなうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）**※ ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
車速が 5km/h を超えると警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常
	高水温警告灯 エンジン冷却水温の異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常
ABS	**ABS 警告灯** ・ABS の異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯＊ ・自動光軸調整システムの異常
D （点滅）	**シフトポジション表示灯** ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
および VSC OFF （点滅）	**スリップ表示灯＊および VSC OFF 表示灯＊** ・VSC システムの異常 ・TRC システムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	全ドアを閉める。
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー） ※1 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	燃料残量警告灯 燃料の残量 （FF は約 7.5L 以下、4WD は約 6.5L 以下になると点滅）※2	燃料を補給

※1 **運転席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

※2 **燃料残量警告灯：**
さらに燃料が少なくなると点滅が早くなります。

ただちに処置してください（キーフリーシステム装着車）

それぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー（車内）	キーフリーシステム警告灯	警告内容	対処方法
連続音※1	（高速点滅）	電子カードキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子カードキーを携帯する※2
5回	（高速点滅）	エンジンスイッチが“LOCK”以外の状態で、いずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた	エンジンスイッチを“LOCK”にするまたは電子カードキーを携帯する※2

※1 いずれかのドアが開いているときに、警告ブザーが鳴ります。

※2 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。（→P. 225）

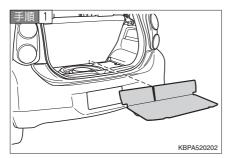
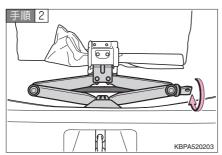
パンクしたときは

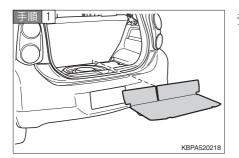
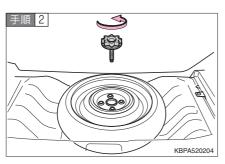
パンクしたタイヤを、備え付けの応急用タイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は P. 191 をご覧ください。)

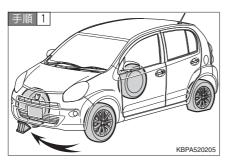
■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

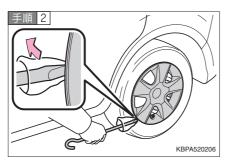
■ 工具とジャッキ位置

ジャッキの取り出し方

デッキボードを取りはずす。

ジャッキを取り出す。

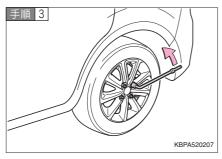
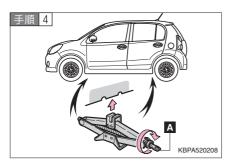
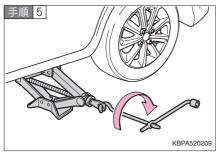
応急用タイヤの取り出し方

デッキボードを取りはずす。

止め具をはずし、タイヤを取り出す。

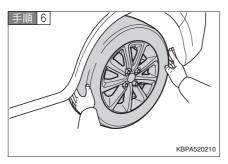
パンクしたタイヤの交換

輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

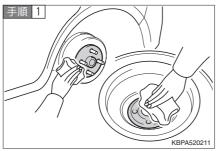
※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

ジャッキハンドルを使用し、ホイールキャップ＊をはずす。

ナットを少し(約1回転)ゆるめる。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。

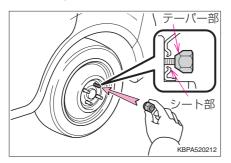
ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

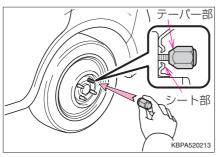
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にして置いてください。

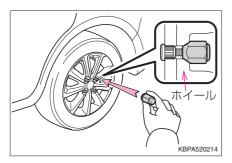
タイヤの取り付け

ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

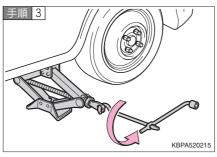
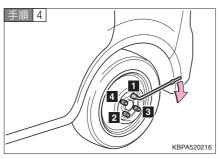
▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす。

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす。

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールに当たるまで仮締めする。

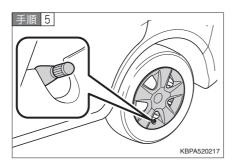
手順 3

車体を下げる。

手順 4

図の番号順でナットを2、3度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

手順 5

ホイールキャップ * を取り付ける。※

タイヤのバルブ（空気口）とホイールキャップの切り欠きを合わせ、ホイールキャップの外周部を押して確実に取り付ける。

※ 応急用タイヤに取り付けることはできません。

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

知識

■応急用タイヤについて

● タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。

● 空気圧を必ず点検してください。（→P. 280）

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■**ジャッキの使用について**

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

⚠警告

■タイヤ交換について

タイヤ交換の際には、以下のことを必ずお守りください。

- ●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
  走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ●ねじ部にオイルやグリースを塗らない
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
- ●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める
- ●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
  上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■応急用タイヤを使用するときは

- ●お客様のお車専用になっているため、ほかの車には使用しないでください
- ●同時に２つ以上の応急用タイヤを使用しないでください
- ●できるだけ早く通常のタイヤと交換してください
- ●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回はお避けください

■応急用タイヤ使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- VSC*
- TRC*
- ブレーキアシスト *
- ナビゲーションシステム *

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- フレックスフルタイム 4WD システム *

注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

■応急用タイヤの格納について

応急用タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 100, 103）にしたがっても、またステアリングロックを解除（→P. 101, 104）してもエンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
  給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
  再度、正しい手順（→P. 100, 103）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム*に異常がある可能性があります。（→P. 68）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 267）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない（キーフリーシステム装着車）

電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統異常の可能性があります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→P. 267)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置の方法がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

シフトレバーがシフトできないときは

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロック（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

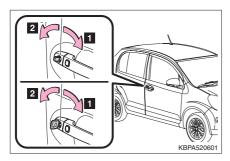
キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 18)

電子カードキーが正常に働かないときは（キーフリーシステム装着車）

電子カードキーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 23）、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

KBPA520601

メカニカルキー（→P. 19）またはメインキーを使って操作します。

1 全ドア施錠

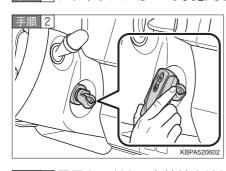
2 全ドア解錠

エンジン始動の方法

▶ メカニカルキーを使用する場合

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む。

手順 2

KBPA520602

電子カードキー裏面のトヨタエンブレム付近をエンジンスイッチに触れた状態にし、メカニカルキーを奥までしっかりと差し込み、エンジンスイッチを押す。

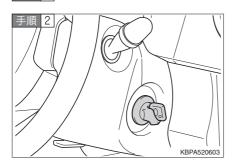
確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

手順 3 電子カードキーを接触させたままエンジンスイッチをまわす。

エンジンスイッチを“ACC”にすると、セキュリティ表示灯（→P. 114）が消灯します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

▶ メインキーを使用する場合

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む。

メインキーを奥までしっかりと差し込み、エンジンスイッチを押す。

確実にエンジンスイッチに差し込んで操作してください。

手順 3 エンジンスイッチを押したままままわす。

エンジンスイッチを“ACC”にすると、セキュリティ表示灯（→P. 114）が消灯します。

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押しながらまわします。

■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P. 225）

■メカニカルキー、メインキーを使用するときは

確実にメインキー、またはメカニカルキーを奥までしっかりと差し込んでください。

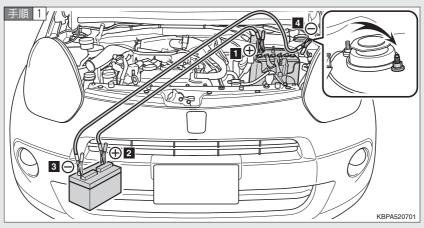
確実にキーが差し込まれていない状態でも、エンジンスイッチがまわる場合があります。この場合、エンジンスイッチの位置に関係なく、キーが抜けるおそれがあります。

キーが抜けてしまった場合は、“LOCK”以外の位置でキーを差し込むことはできませんので、いったん、車を交通のさまたげにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“LOCK”の位置まで戻してから、再度キーを差し込んでください。

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順でつなぐ。

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ。

2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ。

3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ。

4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 3 エンジンスイッチが“LOCK”の状態でいずれかのドアを開閉する。（キーフリーシステム装着車）

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったん“ON”にしてから自車のエンジンをかける。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

ブースターケーブルをはずしたあとは、バッテリーの + 端子のカバーをもとにもどしてください。

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■**バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■**バッテリーの取り扱いについて**

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚·衣服·車体に付着しないようにする

●必要以上に顔や頭などをバッテリーに近づけない

●誤ってバッテリー液が身体に付着したり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■**ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

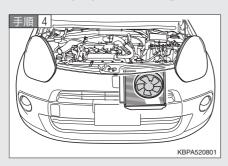
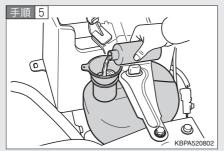
エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

高水温警告灯が消灯したらエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する。

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

●高水温警告灯が点灯、点滅したり、エンジン出力が低下する

●エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

●エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

●エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。

●エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 エンジンを止める。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にする。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

VSC 装着車は、TRC · VSC が作動して脱出しにくい場合、TRC または VSC を停止してください。(→P. 130)

警告

■脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

●タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。

●上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

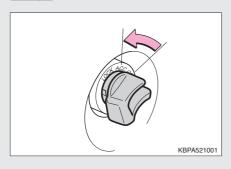
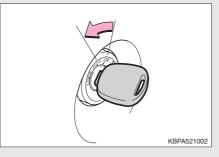
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4 エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する。

キーフリーシステム装着車

キーフリーシステム非装着車

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

ブレーキの効きが悪くなりハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。

車両仕様 6

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には、最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

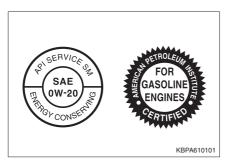
指定燃料	容量 [L]（参考値）	
	FF（前輪駆動）	4WD（4 輪駆動）
無鉛レギュラーガソリン	40	38

エンジンオイル

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）	
		オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
トヨタ純正モーターオイル　SM 0W-20 ※ —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 0W-20 トヨタ純正モーターオイル　SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC　GF-4, SAE 5W-30	1KR-FE	2.9	3.1
	1NR-FE	3.2	3.4

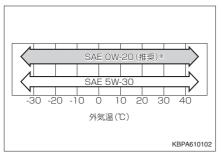
※　0W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 推奨エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック認証）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC 認証マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。

※ 最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の5Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 5W-30 の 30 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは、高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　-12 ℃ 濃度 50%　-35 ℃	1KR-FE	4.0
	1NR-FE	4.5

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値※)
トヨタ純正 CVT フルード　TC	1KR-FE	6.2
	1NR-FE	6.4

※　容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.83

トランスファー（4WD 車）

銘柄（推奨粘度）	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	0.57

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ～ 3
踏み込んだときの床板とのすき間※	70 以上

※ エンジン回転時に 294 N (30 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
踏みしろ 操作力 245 N (25 kgf) のときのノッチ※数	5 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ”という音）のことです。

V リブドベルト

項目	基準値 [mm]
たわみ量 ▶ 1KR-FE エンジン搭載車 ウォーターポンプ / オルタネーター / エアコンコンプレッサー / クランクシャフト KBPA610103 押力 100 N(10.2 kgf) (冷間)	8 ～ 11

※ 1NR-FE エンジン搭載車は点検不要です。

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）
2.0

タイヤ

タイヤサイズ			タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)
標準タイヤ		155/80R13 79S	240 （2.4）
		165/70R14 81S	220 （2.2）
応急用タイヤ	FF（前輪駆動）	T115/70D14	420 （4.2）
	4WD（4 輪駆動）	T105/70D16	420 （4.2）

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト（+Hana 仕様車、ディスチャージヘッドライト装着車） ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドライト：D4S）	 65 35
	ヘッドライト（+Hana 仕様車、ハロゲンヘッドライト装着車） ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（バルブタイプ：H7）	 65 55
	ヘッドライト（標準車、ハロゲンヘッドライト装着車） ハイビーム／ロービーム（バルブタイプ：H4）	60 ／ 55
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H8）	35
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯 フェンダーに装着 ドアミラーに装着	 5 LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯	LED ※
	尾灯	5
	後退灯	16
	リヤフォグライト*	21
	ハイマウントストップライト	16
	番号灯	5
車内	ルームライト	8
	パーソナルライト	5
	マルチトレイライト	LED ※

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
KGC30	1KR-FE (1.0L ガソリン)	FF（前輪駆動）
KGC35	1KR-FE (1.0L ガソリン)	4WD（4 輪駆動）
NGC30	1NR-FE (1.3L ガソリン)	FF（前輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備が付いています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
キーフリーシステム(→P. 20)	キーフリーシステム	あり	なし
イルミネーション(→P. 170)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
	エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし

初期設定が必要な項目

以下の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく働かせるために初期設定が必要です。

項目	初期設定が必要なとき	参照
パワーウインドウ	・バッテリーの充電・交換後の再接続時 ・ヒューズ交換後	P. 61

さくいん

ナビゲーションシステムは、別冊の「ナビゲーションシステム取扱書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
4WD	4 ホイールドライブ
ABS	アンチロックブレーキシステム
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
VSC	ビークルスタビリティコントロール
TRC	トラクションコントロール

五十音順さくいん

え

お

か

き

こ

さ

し

ひ

ふ

※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

症状別さくいん

■警告灯一覧

ブレーキ警告灯 P. 246

充電警告灯 P. 246

油圧警告灯 P. 246

エンジン警告灯 P. 247

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 P. 247

ABS 警告灯 P. 247

パワーステアリング警告灯 P. 247

ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯 P. 247

シフトポジション表示灯（点滅） P. 247

または
スリップ表示灯と VSC OFF 表示灯 * P. 247

半ドア警告灯 P. 248

運転席シートベルト非着用警告灯 P. 248

燃料残量警告灯 P. 248

高水温警告灯 P. 246

*: スリップ表示灯は点灯し、VSC OFF 表示灯は点滅します

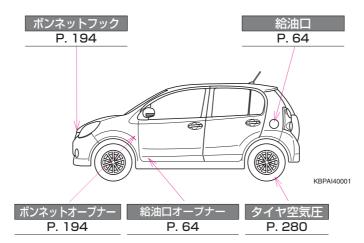
警告音が鳴った

■警告灯が点灯、点滅している（→P. 246）

■警告灯の点灯、点滅がないときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 25
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 107
	ブレーキを踏んだとき	P. 98

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

燃料の容量 (参考値)	FF（前輪駆動）: 40L 4WD（4 輪駆動）: 38L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン　P. 65, 276
タイヤが冷えているときの空気圧	155/80R13 79S : 240 (2.4) kPa (kg/cm^2) 165/70R14 81S : 220 (2.2) kPa (kg/cm^2)
エンジンオイル容量 (参考値)	オイルのみ交換時 1KR-FE エンジン車 : 2.9 L 1NR-FE エンジン車 : 3.2 L オイルとフィルター交換時 1KR-FE エンジン車 : 3.1 L 1NR-FE エンジン車 : 3.4 L
エンジンオイルの種類	トヨタ純正モーターオイル ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20)

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp